

東洋英和女学院大学大学院

THE GRADUATE SCHOOL OF TOYO EIWA UNIVERSITY

「学び」を極める人を育てる六本木の大学院



大学院案内 2024

人間科学研究科

国際協力研究科

東洋英和女学院大学大学院 3大ポリシー

アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)

人間科学研究科／国際協力研究科

東洋英和女学院大学大学院は、建学の精神「敬神奉仕」の理念に基づき、キリスト教精神による人間形成を尊重し、専門職業人の育成と豊かな国際性と広い視野をもつ人材を育成することを教育理念とします。男性・女性を問わず、深い教養を求め、学びを通して与えられた知恵と能力を地球社会に生かし、「隣人」に仕えることを志す人々を受け入れます。

人間科学研究科

人間科学研究科修士課程では、広範な人間科学領域を探究し現代社会の要請に応えるべく、より高度な専門知識と実践力を獲得しようとする意欲・資質を持つ人を積極的に受け入れます。

人間科学研究科博士後期課程では、総合的な人間科学の知識と実践力を有し、研究者あるいは指導的立場を志向する人を積極的に受け入れます。

国際協力研究科

- ・国際社会とそこに生起する諸問題の研究を通し、自らの職務をさらに発展、充実させようとする人を歓迎します。
- ・国際社会の現実を踏まえて、持続可能な国際協力のあり方、国際貢献の方策を追求する人を歓迎します。
- ・国際社会の多様性を理解し、政治経済の課題、開発の課題に取り組もうとする人を歓迎します。

カリキュラムポリシー(教育課程の編成方針)

人間科学研究科

本研究科は、人間を理解し、支援・援助することに関わる多様な分野を対象とした人間科学領域を考究します。現代社会に求められる卓越した見識と高度な実践能力とを養成します。さらに、広い視野と異質なものの理解、多面的・総合的な思考力と共感的理解および批判的判断力を形成し、人間の尊厳を守り、well-beingを促進する態度を育てることで、調和ある共存に貢献できる高度な専門能力を持つ人材の育成を目的とします。

上記の目的を達成するために、人間科学研究科は、修士課程として、人間科学専攻「人間科学領域」、「幼児教育・発達臨床学領域」および「臨床心理学領域」を、さらに博士後期課程を教育課程として設置しています。

【修士課程】人間科学専攻

○人間科学領域

多様かつ実践性にとんだ教育体系のもと、学生の自発的な研究活動を支援し、現場での実践経験と理論を融合するカリキュラムを提供します。現代の人々のライフステージの多様さを支援するため、より高い専門知識と実践能力(技術)を養成しつつ、総合的・学際的研究をすすめています。

○幼児教育・発達臨床学領域

本学の幼児教育学・教育学の伝統を継承し、時代や社会の変化においても普遍的な「子どもに仕える」ことの意味を探究すると共に、新たな時代を見据えた幼児教育学と、親子の関わりや発達に問題を抱える子どもの理解や親子支援の在り方を探究する発達臨床心理学分野のカリキュラムを整えています。

○臨床心理学領域

人間の尊厳を尊重する人間観を基盤として、「こころの専門家」たる公認心理師及び臨床心理士として対人援助を行うため、臨床実習を重視したカリキュラムの下、高度な専門的知識に基づく深い共感性を有する援助実践力の獲得をめざしています。

【博士後期課程】

修士課程で備えた人間科学の理論的知識や方法論の専門技術をより発展させることを通して、総合的で多角的な思考力・分析力を有し、社会と個人を支えることに寄与する独創的な研究を行いうる指導的人材を育成します。

国際協力研究科

- ・学術論文の執筆を念頭に、研究の基礎となる思考法や分析手法を習得するための科目群を提供します。また、研究の進捗に応じて、段階的に指導を行うための演習科目を設けます。
- ・国際社会を対象として発展してきた学問領域について、新たな展開も踏まえた科目群を提供します。
- ・すぐれて今日的な諸課題について、持続可能性を前提とした課題への対処を志向する科目群を提供します。
- ・従来から取り組まれてきた政治経済をはじめとする諸課題について、とくに地域研究を基盤とした科目群を提供します。

人間科学研究科

人間科学の領域における幅広い学識を有し、人間理解や支援・援助をめぐる人と社会のさまざまな事象や課題について、これを分析し、考察し、実際に対応していくことのできる高度な専門的実践力と研究能力を獲得しているとみなされる場合に修士号(人間科学)が授与されます。

本学大学院の博士後期課程を修了した者は、修士課程で備えた理論的知識や専門技術をより発展させることを通して、独創的な研究を行うことのできる自立した研究者・指導者としての能力を有した人材です。博士学位論文の審査、最終試験を経て博士号(人間科学)が授与されます(以下、参照)。

修士認定については、人間科学研究科では、修士論文又は特定の課題についての研究の成果を審査委員が審査し、審査委員による最終試験を行い、研究科委員会で学位を授与することの可否を決議します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された審査委員会による学位論文の審査及び最終試験を行います。研究科委員会で学位を授与することの可否を議決します。修士号及び博士号を授与された論文は製本されて本学大学院図書室に保管され一般の閲覧に供します。

博士号を授与された論文は、東洋英和女学院大学学術リポジトリに掲載し、インターネットにより公表します。

国際協力研究科

- ・国際協力に関連する研究領域において、基礎的な課程を学修し、学術論文の執筆により論理的な思考能力を発揮した者に対して学位(修士号)を授与します。
- ・社会人としての専門性を発揮して、複数の特定の課題について研究成果を提出した者に対しても学位(修士号)を授与します。
- ・プログラム履修生として、系統的な科目履修を行った者に対しては、課程修了証(ディプロマ)を授与します。



東洋英和女学院大学
学 長
星野 三喜夫

ごあいさつ

本学は高い問題解決能力を持つ高度専門職業人・社会人を育成することを目的に、広く社会に門戸を開いた大学院です。

日本社会は、高齢化・少子化による人口構成の変化、社会全体の高学歴化など、未曾有の状況に直面しています。最終段階の高等教育機関としての大学院も、その変化に対し柔軟かつ迅速な対応が求められています。

そのような中で、私どもの大学院は男性・女性を問わない学びの場として、わが国の社会・経済における価値の多様化、高齢化、国際化の進展に対応できる高度の知識と幅広い視野を持った、課題解決型の社会人養成を目指しています。そのため、充実した教授陣とユニークなカリキュラムの下でセメスター制を導入し、4月入学・3月修了だけでなく、10月入学・9月修了を選択できるようにしています。また、授業は平日の日中に仕事を持っている人も受けやすいように、平日夜間と土曜日に設定されています。

さて、そのような本学大学院での履修と研究において、院生には「新しい時代を見極める目」を養うことが求められます。世の中はまだまだ過渡期にあり、さまざまなことが変化の途上にあります。本学の院生は、自分を取り巻く社会がこれからどのように変化し、進んでいくのか、自分なりに仮説を立て、資料やデータを駆使して結論を導き出すプロセスに果敢にチャレンジしてください。そして、仮説や結論を、共に歩む仲間と対話をしながら見定めていくことが求められます。新しい時代は、先輩達が出した結論が必ずしも正しいとは限りません。出会った疑問に対し「これ、おかしいよね」「今はそうじゃないよね」と言い合える仲間を作ることも大切です。このようなプロセスが、課題設定や研究において大きな原動力や機動力になります。

高等教育の最終段階としての大学院教育に対する社会からの期待は増々大きくなっています。私ども大学院で濃密な時間と空間を共有し、教授陣や仲間と切磋琢磨し、社会をより良い方向に導く力強いリーダーになってくれることを願っています。

東洋英和女学院大学大学院修士課程のすべてが 専門実践教育訓練指定講座(厚生労働省指定) となりました!

入学金と授業料の70%が雇用保険から支給され学費の負担が軽減されます!

【専門実践教育訓練給付金の対象となる研究科・領域】

研究科・領域	訓練給付金受給金額
国際協力研究科修士課程 国際協力専攻	826,000円
人間科学研究科修士課程 人間科学領域 死生学関連分野／教育学関連分野	826,000円
人間科学研究科修士課程 臨床心理学領域	896,000円
人間科学研究科修士課程 幼児教育・発達臨床学領域	826,000円

【教育訓練給付金支給の流れ】

1. 大学院へ学費納付後、半期毎に申請・受給
2. 教育訓練経費(入学金、授業料等)の50%が雇用保険から支給
3. 大学院を2年で修了、修士の学位取得
4. 教育訓練経費の20%に相当する額を追加支給
(受講修了日の翌日から1年以内に被保険者として雇用された方、既に雇用されている方対象)

【専門実践教育訓練給付金をもらえる方】 ★受給資格の有無については、事前にハローワークに照会できます

○教育訓練給付制度を初めて利用する場合

大学院の授業開始日の時点で、雇用保険の被保険者だった期間が通算2年以上ある方等

○会社を辞めてしまい、離職している場合

雇用保険の被保険者だった期間が2年以上ありながらも退職した場合には、離職日の翌日から授業開始日までの期間が1年以内である方等

【授業料等と訓練給付金受給金額の詳細】 ◆臨床心理学領域は学費に実習費が含まれるため、受給合計金額は896,000円です

学費納付	項目	学納金の金額		申請時期 (受給)	訓練給付金受給金額 (雇用保険より)
1年生 4月	入学金	300,000円	620,000円 (合計)	1年生10月	260,000円 (学費納付後毎に 申請・受給)
	授業料(1年前期)	220,000円			
	教育充実費および施設設備資金(1年前期)*	100,000円			
1年生 10月	授業料(1年後期)	220,000円	320,000円 (合計)	2年生4月	110,000円 (学費納付後毎に 申請・受給)
	教育充実費および施設設備資金(1年後期)*	100,000円			
2年生 4月	授業料(2年前期)	220,000円	320,000円 (合計)	2年生10月	110,000円 (学費納付後毎に 申請・受給)
	教育充実費および施設設備資金(2年前期)*	100,000円			
2年生 10月	授業料(2年後期)	220,000円	320,000円 (合計)	修了後の4月	110,000円 (学費納付後毎に 申請・受給)
	教育充実費および施設設備資金(2年後期)*	100,000円			
修了後	修了後に申請・受給	—	—	修了後の4月	236,000円 (追加支給)
—	総合計	—	1,580,000円	—	826,000円

* 教育充実費および施設設備資金は、訓練給付金の支給対象ではありません

★給付金の受給は、本課程を2年間で修了した場合に限られます。長期履修学生には適用されません。

★教育訓練給付金については、厚生労働省のホームページをご参照ください。

社会人・大学新卒者の両方を対象にした 男女共学の大学院です

本大学院は男性・女性を問わず、社会人に学びの場を提供し、わが国の社会・経済における価値の多様化、高齢化、国際化の急速な発展に対応できる高度な知識と幅広い視野をもった、問題解決型の職業人育成を目標としています。

セメスター制(学期制)の導入

履修科目を多様化して研究テーマに対する広い視野からのアプローチを可能にするために、セメスター制を実施しています。これによって4月入学・3月修了だけではなく、10月入学・9月修了も認められるので、有職者は職場の事情に合わせて入学時期や修了時期を選ぶことができます。ただし、人間科学研究科臨床心理学領域及び博士後期課程は1年単位の科目があるため、4月入学のみ行っています。

平日夜間と土曜日に授業を開講

講義は、平日の日中働いている方も通いやすいように夜間と土曜日に開講しています。

曜 日	時 限	授業時間
月曜日～金曜日	6 限	18:30～20:00
	7 限	20:10～21:40
土曜日	1 限	9:00～10:30
	2 限	10:40～12:10
	3 限	13:00～14:30
	4 限	14:40～16:10
	5 限	16:20～17:50
	6 限	18:00～19:30

※臨床心理学領域では、木曜日15時20分から20時まで必修の授業が行われます。この間17時から20時(21時40分の場合あり)までのケースカンファレンスへの出席が修士課程・博士後期課程のすべての院生に義務付けられています。その他の平日(1年生は週1日、2年生は週2日)に学外実習を行っています。

アットホームで手厚いサポート

少人数制の大学院で、学生と教員の距離がとても近いのが本学の特徴。なんでも相談できる関係にあります。論文指導は個別指導が中心。学生の時間に合わせて、指導時間を決めて対応しています。男性、女性問わず、20代から60代まで幅広い年齢層で、様々な業種・職種の方がお互いに新たな刺激を受けながら、研究活動を進めています。

交通至便な環境・充実した施設

六本木駅(日比谷線、大江戸線)と麻布十番駅(南北線、大江戸線)の2駅利用できる都心にあり、通学にはとても便利な立地です。都心にありながら、大学院周辺は閑静な文教地区になっています。

平日の授業は夜間ですが、院生研究室やコンピュータ室、一般教室は9時から21時45分(夏季・春季休業中は9時から21時まで)、土曜日は9時から20時まで利用できます。

一人にひとつの個人ロッカーも完備しています。

収容定員

研究科	専 攻	修士課程		博士後期課程		合計 収容 定員
		入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	
人間科学研究科	人間科学専攻	30名	60名	3名	9名	69名
国際協力研究科	国際協力専攻	10名	20名			20名
合 計		40名	80名	3名	9名	89名

修了要件

修士課程の修了要件は、両研究科共、修士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は研究成果の審査及び最終試験に合格することです。

人間科学研究科臨床心理学領域は、修士論文の作成が必須であり、研究成果の選択はできません。

博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することです。

授与する学位

研究科	専攻	修士課程	博士課程
人間科学研究科	人間科学専攻	修士 (人間科学)	博士 (人間科学)
国際協力研究科	国際協力専攻	修士 (社会科学)	



文部科学省認定「職業実践力育成プログラム(BP)」



専門実践教育訓練指定講座



単位互換制度(上智大学・首都圏宗教)

東洋英和女学院大学大学院における人間科学領域の特徴は、「人間科学」という広い枠組みのなかで、教育、家庭、社会、子ども、看護、介護、倫理、障害といったさまざまなテーマを学ぶことができる点にあります。人間が教育を通して育つ存在であるということ、人間が生や死を通して存在を確立するという、その根本的な視点に立ち返りながら、現代社会に資する知見を身につけることができます。



教育学関連分野

教育学関連分野では、家庭と子どもの教育・学校教育・生涯教育・看護師養成教育に関わる専門教育等の様々な場合において、教育に係る職業に従事しているか、あるいは教育に関する諸問題に対して理解を深め、より学術的かつ専門的に知識を深めたいという動機を持つ学生と共に研究することを目的としています。

授業では、学校、社会、国際、ジェンダーといったより広い視点から「教育」を捉えることで、現代の教育を分析的・客観的に分析する視点を養います。

〔授業紹介〕

■教育社会学特論

現代家族にみられる問題等を、「なぜ」、「どのようにして」という疑問をもちつつ、家族の歴史を振り返って理解を深める。

■学校教育と社会

現代の学校教育における諸問題について、実践、理論、政策、社会状況などの視点から多角的に学ぶ。

■教育史特論

教育の変遷を歴史的視点から考察し、教育の考え方や実践の特徴・課題を教育史的にとらえる。

■教育哲学特論

人間の成長・発達における「知」の形成とは何か、またそれを支援する教育のあり方について考察する。

■国際理解教育特論(国際協力研究科と同時開講)

持続可能な開発目標(SDGs)の達成を目指すグローバル環境において、国際教育を「国際理解教育」「国際教育協力」の二面から捉え理解する。

死生学関連分野

死生学関連分野では、精神医学、生命倫理学、宗教学を基盤に死生観、ターミナルケア、グリーフケア、スピリチュアリティに関わる研究教育活動を死生学研究所と共に行っています。

本分野は1993年の大学院開設以来、徐々に拡充され、今日までにすでに200人以上の修士生を輩出しています。修士生は全国各地で死生学関連の研究・教育・実践活動に従事しています。

今後、少子・超高齢化が進み、高齢者における死との関わり方がいっそう重要な問題となっていくことが予想されます。また国内外におけるパンデミック、戦争、各種の災害等がもたらす死の認識も大きな課題であり続けます。

国内では、現在、いくつかの大学で死生学関連の講座、研究機関が開設され同様の研究教育実践活動が行われるようになってきています。本学もそれらの研究教育機関との連携をいっそう深めていく予定です。

◆上智大学との単位互換制度(修士課程 死生学関連分野)

2020年4月より、本大学院修士課程人間科学領域死生学関連分野と上智大学実践宗教学研究科死生学専攻修士課程とのあいだで単位互換制度を開始しました。本大学院修士課程人間科学領域死生学関連分野の大学院生は、上智大学実践宗教学研究科死生学専攻修士課程の授業を各年度に2科目4単位まで履修でき、修得した単位は修了に必要な単位として認定されます(他の大学院で修得した単位を含めて10単位を上限として認定します)。

◆首都圏宗教単位互換協定

(修士課程 死生学関連分野、博士後期課程 死生学関連分野)

本大学院は、首都圏宗教単位互換協定を6大学(國學院大学、駒澤大学、聖心女子大学、創価大学、大正大学、立教大学)の大学院と締結しています。

この協定により、修士課程死生学関連分野および博士後期課程死生学関連分野の学生は、協定先より提供された科目を履修でき、修得した単位は修了に必要な単位として認定されます(他の大学院で修得した単位を含めて10単位を上限として認定します)。

〔授業紹介〕

■死生学概説: 担当 田中智彦

死生学は「死」と「生」をどのように語ってきたのか。そこにはどのような意義があり、また問題があるのか。「死生学とは何か」という批判的な問いを通じて、死生学への理解を深めていきます。

■宗教学特論: 担当 奥山倫明

宗教学の現在の問題状況と宗教研究の方法論について学んでいきます。また世界の諸宗教に関するさまざまな文献も取り上げ、英文資料の読解にも取り組みます。

死生学関連分野



奥山 倫明 教授
(博士(文学))

- 専門分野：宗教学、宗教史学、宗教社会学
- 研究テーマ：近代宗教研究、日本宗教史
- 指導可能なテーマ：宗教的死生観の研究、スピリチュアリティ研究
- 担当科目：宗教学特論、宗教社会学特論、人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、人間科学演習Ⅰ・Ⅱ、宗教学研究(D)、特殊研究(D)
- 主な所属学会：日本宗教学会、日本社会学会、「宗教と社会」学会、宗教法学会



田中 智彦 教授
(修士(政治学))

- 専門分野：哲学、倫理学、思想史
- 研究テーマ：メタバイオエシックス、特に生命をめぐる倫理・政治・科学技術の思想史
- 指導可能なテーマ：医学・医療・生命科学技術の倫理的問題について、バイオエシックス(生命倫理)の思想と歴史について、近現代の人間観・死生観の来歴と課題について
- 担当科目：死生学特論、生命倫理特論、死生学概説、バイオ・サナトロジー特殊研究、人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、人間科学演習Ⅰ・Ⅱ、生命倫理研究(D)、特殊研究(D)
- 主な所属学会：日本生命倫理学会、日本倫理学会、日本政治思想学会

教育学関連分野



尾崎 博美 准教授
(博士(教育学))

- 専門分野：教育哲学、教育思想
- 研究テーマ：教育目的論、教育関係論、ケアリング論
- 指導可能なテーマ：
 - ・「教える一学ぶ」の関係や場に関する研究
 - ・教育や学校は何のためにあるのか、人間にとって「善さ」とは何か、等の原理的研究
 - ・メディアや社会における「教育」や「子ども」の捉え方に関する研究
 - ・教育における「女性」「ジェンダー」を問う研究
- 担当科目：教育思想史特論、教育哲学特論、人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、人間科学演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：教育哲学会、教育思想史学会、日本教育学会、日本教師学会、日本保育学会



塩崎 美穂 准教授
(修士(教育学))

- 専門分野：教育学、保育思想史、比較文化論
- 研究テーマ：
 - ・保育の公共性
 - ・実践者の倫理をかたちづくる保育の歴史文化的研究
 - ・比較文化論からみた保育・幼児教育の思想的変遷
- 指導可能なテーマ：
 - ・保育思想研究
 - ・比較文化的な視点をもった保育・幼児教育研究
 - ・教育の実践と理論をつなぐ研究
- 担当科目：教育史特論、人間科学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、人間科学演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本保育学会、日本教育学会、幼児教育史学会

人間科学研究科



渡部 麻美 教授
(博士(心理学))

- 専門分野：社会心理学
- 研究テーマ：
 - ・若年者のソーシャルスキルが対人行動に及ぼす影響の検討
 - ・若年者を対象としたソーシャルスキル・トレーニングの実践
 - ・主張性スキルと社会的適応の関連の検討
- 担当科目：人間科学研究法基礎論
- 主な所属学会：日本心理学会、日本社会心理学会、日本教育心理学会、日本パーソナリティ心理学会

※ (D) は博士後期課程科目

◇人間科学領域修了者 主な修士論文題目と論文指導教員一覧

修士論文題目	指導教員
看護教育における教員の「教養」意識に関する研究 ―教員を対象としたインタビュー調査に基づいて―	尾崎 博美
芸術を通じた「知」の学びの可能性 ―アーツ・インテグレーション教育の分析を通して―	尾崎 博美
がん患者遺族に見られる心的外傷後成長についての研究 ―遺族の手記による「語り」から―	山田 和夫
喪失悲嘆からの再生 言葉に導かれたスピリチュアリティ ―子どもを自死で亡くした2組の家族の「ものがたり」―	山田 和夫
腎移植を受けたレシピエントと生体ドナーの死生観の変容 ―レシピエントと生体ドナーの語りの分析から―	山田 和夫
新型出生前診断(NIPT)の新聞による報道内容の現状 ―産む側が接する情報とその課題―	山田 和夫
在宅療養生活を送る非がん高齢者の死と訪問看護師の死生観 ―二人称と三人称の間での揺らぎ―	山田 和夫
末期がんから回復したがんサバイバーの体験 ―スピリチュアリティの視点からの考察―	山田 和夫
身体と心をまとめる「身」に対するスピリチュアルケア ―終末期がん患者に対する理学療法士としてののかかわりから―	新村 秀人

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次		期	授業方法	開講時期(予定)			
		必修	選択	1年	2年			2024年度		2025年度	
								前期	後期	前期	後期
人間科学領域	人間科学研究法基礎論		2	○	○	半期	講義	●		●	
	教育社会学特論		2	○	○	半期	講義	●			
	現代社会と教育		2	○	○	半期	講義		●		
	学校教育と社会		2	○	○	半期	講義		●		
	教育史特論		2	○	○	半期	講義				●
	教育思想史特論		2	○	○	半期	講義			●	
	教育哲学特論		2	○	○	半期	講義				●
	比較教育学特論		2	○	○	半期	講義	●			
	国際理解教育特論		2	○	○	半期	講義	●			
	宗教学特論		2	○	○	半期	講義		●		
	現代スピリチュアリティ特論		2	○	○	半期	講義				●
	日本宗教史特論		2	○	○	半期	講義	●			
	宗教社会学特論		2	○	○	半期	講義			●	
	日本の死生観		2	○	○	半期	講義				●
	アジアの死生観		2	○	○	半期	講義		●		
	神話学		2	○	○	半期	講義		●		

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次		期 間	授業 方法	開講時期(予定)				
		必修	選択	1年	2年			2024年度		2025年度		
								前期	後期	前期	後期	
人間科学領域	死生学関連分野	死生学特論	2	○	○	半期	講義			●		
		生命倫理特論	2	○	○	半期	講義				●	
		死生学概説	2	○	○	半期	講義	●				
		バイオ・サナトリジー特殊研究	2	○	○	半期	講義		●			
		グリーフ・ケア論	2	○	○	半期	講義			●		
		ターミナルケア論	2	○	○	半期	講義	●				
		精神医学における生と死	2	○	○	半期	講義		●			
		精神保健学特論	2	○	○	半期	講義				●	
	人間科学基礎演習Ⅰ (修士論文指導)	2		○		半期	演習	●	●	●	●	
		人間科学基礎演習Ⅱ (修士論文指導)	2		○		半期	演習	●	●	●	●
		人間科学演習Ⅰ (修士論文指導)	2			○	半期	演習	●	●	●	●
		人間科学演習Ⅱ (修士論文指導)	2			○	半期	演習	●	●	●	●

人間科学領域(修士論文又は研究成果を提出する場合)

人間科学領域の科目から必修4科目(8単位)を含む合計30単位以上。他領域又は他研究科の演習・実習以外の科目合計8単位まで修了に必要な単位に算入可能

学生紹介

人間科学領域(死生学関連分野)

人材派遣会社に勤務していた頃、子どもを預けていた保育園の先生から子どもに対して言われた言葉が頭から離れずにいました。「その言葉、そういう言い方ってどうなんだろう?」と傷つき、疑問に思い続けていました。新卒で入った会社で教え込まれていた「自分も欲しいサービスを形にする」という気持ちが常にあったので、「保護者の気持ちがわかる保育士に。」と思うようになり、働きながら保育士資格を取得しました。保育士に転身し、それ以来10年になります。

上智大学の公開講座でアルフォンソ・デーケン神父の話を聞く機会がありました。神父は、温かなユーモアを交えて明るく死についてを語り、死を考えることは、生きることを考えることと知り、タブー視する思いや恐怖感が薄れ、とても刺激的な時間でした。それが死生学との出会いです。その後10年以上経ち、実父との死別を経験し、今こそ死生学を学ぶ時だと実感しました。

東洋英和女学院大学大学院の死生学は、国内の大学院の中でパイオニア的存在ですが、人間科学研究科の中にあり、幼児教育学や発達学、教育学、宗教学等も学べる学際的な点に魅かれました。保育士の自分にとって、幼児教育・発達臨床学領域の現役保育士の学生の方と出会い、仕事や研究内容を情報交換できることも魅力的です。単位互換制度を利用して、上智大学大学院の授業を履修していますが、これはとても刺激的です。

大学院では、死をタブー視せず、「死をテーマにした対話」をするデスカフェをオンラインで経験し、とても興味深く、なぜこんなに楽しいのかを知りたくなり、研究テーマに選んでいます。介護職として、お看取りもされる方々が日頃からカジュアルに「死をテーマにした対話」をすることによって、終末期にある方を前にしても、消極的にならずに介護にあたることができるのではないかと仮説を立て、研究しています。将来は、高齢者施設等で、「死をテーマにした対話」を広める活動ができればと思っています。



人間科学領域(死生学関連分野)
立部 直子



文部科学省認定「職業実践力育成プログラム(BP)」



幼稚園教諭専修免許



専門実践教育訓練指定講座

本領域は、東洋英和のキリスト教精神を基盤とする「幼児教育の理論と実践研究」、および現代的問題としての「子どもの発達臨床的問題の探求」の二本柱から構成されています。

本学院の理念である「敬神奉仕」の精神を具現化する保育・幼児教育の在り方を探求する学びと共に、保育・幼児教育の動向を捉えつつ、様々なニーズを持つ子どもの成長発達や発達的な問題・障害の理解と支援に関する学びを深める多様なカリキュラムが用意されています。そして、子どもの保育、教育、発達支援に求められている専門性を備え、子どもの幸せに貢献できる人材を養成することを目的としています。また、他領域に幅広く開講されている科目を履修する課程においては、ほかの分野で学ぶ社会人学生との交流も生じ、自身の視野の広がりや研究テーマが深まる契機ともなります。

本領域は、幼稚園教諭1種免許を取得していなくても入学することができます。幼稚園教諭や保育士等に加え、多方面で活躍している方が在学しています。保育者、発達支援の専門職、表現療法の実践者だけでなく一般企業で働く方々にも研究の場となることを期待しております。なお、本領域は幼稚園教諭専修免許課程が開設されており、幼稚園1種免許取得者は幼稚園教諭専修免許状の取得が可能となります。



学生紹介

幼児教育・発達臨床学領域

高校時代、大学では将来の仕事に活かせる学びをしたいと思っていました。幼少期から年少の子どもを世話することが好きで、子ども達と一緒に生活できる保育者を目指そうと思い、短期大学保育科に進学しました。

短大は、授業や実習がとても忙しかったのですが、自分が学びたいことを学べていると実感できる、充実した楽しい日々でした。短大では専攻科にも進学。専攻科での実習先が今の職場の幼稚園となり、それ以来、幼稚園教諭として長く勤めてきました。

保育の仕事は、心を遣い、頭を使い、身体を使う心技体が必要で、バランスが重要な仕事であると感じます。大変なこともあります。子ども達や保護者の方々とのつながりを持てるやりがいのある仕事であると思います。

そうして日々の保育を積み重ねていくうちに、保育者としてステップアップしたいと思うようになっていきました。かつて職場に社会人大学院に通う先輩がいたので、いつか自分も学んでみたいと思いました。そしてコロナ禍になり、今の当たり前がずっと続くわけではないと感じたときに「やりたいことは先延ばしせずに、今、やろう」と大学院進学を決意しました。

短大卒業でしたが、幼稚園教諭1種免許をもっていたため、幼児教育・発達臨床学領域の受験資格を満たしており、出願資格審査を受けることなく、本大学院を受験することができました。大学院はディスカッションや発表をする授業が多く、受け身でいられない分、自分に返ってくることも多く、学ぶ楽しさがあります。様々な職業と幅広い年齢の方がいて、皆様の学びへの熱量に刺激を受けながら、また共に学び合う良き仲間として支えられながら、学生生活を送っています。



幼児教育・発達臨床学領域
赤坂 洋子

幼児教育・発達臨床学領域



久保田 まり 教授
(博士(文学))

- 専門分野: 発達心理学
- 研究テーマ: 愛着対象の生涯における機能、愛着の障害、社会的養護と愛着の問題
- 指導可能なテーマ:
 - ・生涯発達における研究
 - ・親子関係(母子関係)に関する研究
 - ・発達支援に関する研究
- 担当科目: 発達臨床学特論、乳幼児発達心理学特論、思春期・青年期発達心理学特論、発達心理学研究法、幼教・発達学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、幼教・発達学演習Ⅰ・Ⅱ、発達心理学研究(D)、特殊研究(D)
- 主な所属学会: 日本心理学会、日本発達心理学会、日本教育心理学会、日本子ども虐待防止学会、日本乳幼児医学・心理学会



西 洋子 教授
(博士(学術))

- 専門分野: 表現的教育、身体表現論、ノンバーバルコミュニケーション論
- 研究テーマ:
 - ・子どもの表現とコミュニケーション
 - ・感性や創造性の発達と表現支援
 - ・共創表現のファシリテーション
- 指導可能なテーマ:
 - ・乳幼児期の表現とコミュニケーション
 - ・プロジェクト型の幼児教育・保育の内容及方法
 - ・保育現場での子ども、保育者、保護者のコミュニケーション
 - ・インクルージブアートと社会実践
- 担当科目: 表現教育特論、表現文化フィールド研究、保育内容特論(オムニバス)、幼教・発達学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、幼教・発達学演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会: 日本保育学会、共創学会、舞踊学会



塩崎 美穂 准教授
(修士(教育学))

- 専門分野: 教育学、保育思想史、比較文化論
- 研究テーマ:
 - ・保育の公共性
 - ・実践者の倫理をかたちづくる保育の歴史文化的研究
 - ・比較文化論からみた保育・幼児教育の思想的変遷
- 指導可能なテーマ:
 - ・保育思想研究
 - ・比較文化的な視点をもった保育・幼児教育研究
 - ・保育の実践と理論をつなぐ研究
- 担当科目: 幼児教育特論Ⅱ、保育内容特論(オムニバス)、幼教・発達学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、幼教・発達学演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会: 日本保育学会、日本教育学会、幼児教育史学会



平田 幸宏 准教授
(教育学修士)

- 専門分野: 障害児保育(特別支援保育)、特別支援教育、発達相談、教育相談
- 研究テーマ:
 - ・特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の具体的支援のあり方
 - ・特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の家族支援のあり方
- 指導可能なテーマ:
 - ・特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒と家族に関する研究
 - ・インクルーシブ保育・インクルーシブ教育に関する研究
- 担当科目: 障害児保育特論、幼教・発達学基礎演習Ⅰ・Ⅱ、幼教・発達学演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会: 日本特殊教育学会(知的障害・発達障害)・日本保育学会(障害児保育・統合保育)

授業紹介

◇発達臨床学特論
(担当: 久保田まり)

乳幼児期から青年期までの「関係性の中の心の発達過程」および「関係性の病理やつまずき」について、最新の研究や実践の在り方を学びます。特に、虐待やネグレクトなどの「不適切な養育」によって被るダメージについて、脳科学的知見、発達心理学的知見、臨床心理学的知見、児童養護の実践などを学び、合わせて切れ目のない支援の在り方についても考察します。

◇表現教育特論
(担当: 西 洋子)

子どもが「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」表現教育のあり方について、想像と創造、感性、美的経験等をキーワードに教育学、保育学、心理学等の文献を通して学びます。また、国際的に評価の高い幼児教育実践を取り上げ、理念と教育内容や方法の実践を学び、主体的で対話的な表現的教育へのより深い専門的理解を築きます。

◇幼児教育特論Ⅱ
(担当: 塩崎 美穂)

保育・幼児教育が内包する普遍的原理を探究します。それは同時に、教育における保育的領域の固有性について多角的に分析することとつながっています。乳幼児期の子どもの育ちや就学前期に設けられているケアや教育について、いったん実践そのものから身を離し、学際的かつ対話的に思索します。

◇障害児保育特論
(担当: 平田 幸宏)

インクルーシブ保育のベースとして健常児と障がい児の発達上の差異を明らかにするのではなく、障がいを個々の幼児・児童の属性のひとつとしてとらえ、一人ひとりをどう理解するかといった障がい理解の観点から対象への理解を築きます。あわせて、通常の保育と特別支援保育の違いを理解し、特にインクルーシブ保育の実践事例を通して特別支援保育の本質に迫ります。

◇幼児教育コース・幼児教育・発達臨床学領域修了者 主な修士論文題目と論文指導教員一覧

修士論文題目	指導教員
児童養護施設における愛着形成の可塑性と再構築の在り方 —オルタナティブ・アタッチメントの可能性—	久保田 まり
安定愛着を中心とした親子関係構築のための有効な育児支援の在り方 —子育て中の母親たちへのインタビューからの検討—	久保田 まり
2歳児の園生活のエピソード記述にみるコミュニケーションの様相 —子どもは他者とともに繋がろうとするのか—	西 洋子
コミュニティと共に創られる幼児教育 —レッジョ・エミリア・アプローチの独自性に関する一考察—	西 洋子
5歳児の音楽的活動にみる相互関係 —子ども・音楽・保育者に着目して—	西 洋子
共に育ち合う子どもたち —幼児のケア行為に着目して—	平田 幸宏
集団での「絵本」の読み聞かせは2歳児の成長にどう関わるのか —身体が共にあることの意義—	西 洋子

人間科学研究科 人間科学専攻[修士課程] 幼児教育・発達臨床学領域

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	期	授業方法	開講時期(予定)			
							2024年度		2025年度	
		必修	選択	1年	2年	間	前期	後期	前期	後期
幼児教育・発達臨床学領域	人間科学研究法基礎論	2	○	○	半期	講義	●		●	
	発達臨床学特論	2	○	○	半期	講義		●		
	乳幼児発達心理学特論	2	○	○	半期	講義			●	
	思春期・青年期発達心理学特論	2	○	○	半期	講義	●			
	発達心理学研究法	2	○	○	半期	講義				●
	障害児療育特論	2	○	○	半期	講義				●
	障害児保育特論	2	○	○	半期	講義			●	
	児童福祉特論	2	○	○	半期	講義				●
	幼児教育特論I	2	○	○	半期	講義			●	
	幼児教育特論II	2	○	○	半期	講義	●			
	キリスト教幼児教育特論	2	○	○	半期	講義		●		

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次	期	授業方法	開講時期(予定)			
							2024年度		2025年度	
		必修	選択	1年	2年	間	前期	後期	前期	後期
幼児教育・発達臨床学領域	カウンセリング特論	2	○	○	半期	講義				●
	情報教育特論	2	○	○	半期	講義	●			
	表現教育特論	2	○	○	半期	講義				●
	保育内容特論	2	○	○	半期	講義	●			
	表現文化フィールド研究	2	○	○	半期	講義		●		
	幼教・発達学基礎演習I(修士論文指導)	2		○	半期	演習	●	●	●	●
	幼教・発達学基礎演習II(修士論文指導)	2		○	半期	演習	●	●	●	●
	幼教・発達学演習I(修士論文指導)	2		○	半期	演習	●	●	●	●
	幼教・発達学演習II(修士論文指導)	2		○	半期	演習	●	●	●	●

幼児教育・発達臨床学領域(修士論文又は研究成果を提出する場合)

幼児教育・発達臨床学領域の科目から必修4科目(8単位)を含む合計30単位以上。幼稚園教諭専修免許資格を目指す人は免許に必要な課程科目の要件を満たすこと。他領域又は他研究科の演習・実習以外の科目合計10単位まで修了に必要な単位に算入可能

幼稚園教諭専修免許課程科目(人間科学研究科人間科学専攻幼児教育・発達臨床学領域適用)

区分	科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		授業方法	備考
				必修	選択		
幼稚園教諭専修免許課程科目	大学が独自に設定する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	表現教育特論	1・2	2	講義	このうちより24単位選択必修
		保育内容特論	1・2		2	〃	
		情報教育特論	1・2		2	〃	
		現代社会と教育	1・2		2	〃	
		教育思想史特論	1・2		2	〃	
		教育哲学特論	1・2		2	〃	
		教育史特論	1・2		2	〃	
		幼児教育特論I	1・2		2	〃	
		幼児教育特論II	1・2		2	〃	
		キリスト教幼児教育特論	1・2		2	〃	
		表現文化フィールド研究	1・2		2	〃	
		乳幼児発達心理学特論	1・2		2	〃	
		障害児保育特論	1・2		2	〃	
		発達臨床学特論	1・2		2	〃	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	カウンセリング特論	1・2		2	〃	
		合計			30		

学生紹介

幼児教育・発達臨床学領域

私は家族と共に5年ほど海外で生活をしていました。帰国後、子どもたちは公立の小学校に転入しましたが、現地で幼少期を過ごし英語で教育を受けてきたため、日本語の習得が十分でなかった子どもたちが日本の学校生活に慣れるのはそう簡単なことではありませんでした。特に長男にとって日本語での学習はハードルが高く、基礎学力の習得に大変苦労しました。このような経験をきっかけに、私は公立小学校で学習支援活動を始め、学習の遅れが見られる児童や教育的ニーズをもつ児童を中心に支援を行ってきました。子どもたちの「わかった、できた」が増えていく時の喜びはとても大きいものでした。さらに子どもたちの笑顔を増やすために、私には何ができるだろうかと考えたとき、私自身の能力を高める必要性を感じました。教育現場での勤務経験が多くはなかった私は、教育の専門知識とスキルを習得するため大学の共生科学科に編入学し、特別支援教育を中心とした理論と実践を学び、教育との連携が不可欠な福祉や医療についても学修を深めてきました。この学びを現場で活かし、さらに教育の担い手である教員を支えていきたいとの思いから、現在は公立小学校で特別支援教室専門員およびスクールカウンセラーとして、主に通常学級に在籍する児童に対して支援を行っています。

現場では、「個別最適化」、一人ひとりの子どものありように応じた指導と支援が求められています。しかし、一人で直接支援できる人数は限られています。より多くの子どもたちに必要な指導と支援を届けるためには、教員支援を主旨とした後方支援体制を構築することが必要なのではないかと考え、その研究を進めるために大学院に進学しました。仕事と研究の両立は簡単ではありませんが、先生方から薫陶を受けつつ、人生に彩りを与えてくれる仲間を支えられ充実した大学院生活を送っています。



幼児教育・発達臨床学領域
篠崎 友希子

 公認心理師受験資格  臨床心理士受験資格

 文部科学省認定「職業実践力育成プログラム(BP)」  専門実践教育訓練指定講座

臨床心理学領域は心理学的な対人援助に関する教育・研究を行います。公認心理師・臨床心理士資格を持つ教員9名、他の人間科学専攻専任教員と非常勤講師や相談員の協力を得て、臨床心理学の教育と研究に取り組んでいます。本領域は、所定の資格課程科目を修得することによって、修士課程修了後、国家資格「公認心理師」および「臨床心理士」資格試験の受験資格を得ることができます。これは、高度専門職業人の育成という本研究科の目的を具体化するものです。授業は、平日の夜間と土曜日の他に、一部は平日(木曜)昼間に行っています。その他の曜日の昼間に、病院や教育相談所等での学外実習を行います。

※(財)日本臨床心理士資格認定協会による第1種大学院の指定を受けています。公認心理師受験資格取得には、大学院入学前に四年制大学等で公認心理師法に定める指定科目の単位修得が必要です。



臨床心理学領域における教育と研究の特色

- (1) 本領域の在籍生は、公認心理師・臨床心理士になるために、2年間で心理療法・カウンセリングと心理アセスメントの理論と実践を基礎から体系的に学んでいきます。実践を深めていくための学びとして、カウンセリングや心理療法に関しては、力動的心理療法、来談者中心療法、プレイセラピー、箱庭療法、ブリーフセラピー、臨床動作法、催眠療法、またイメージ・夢・絵画を通じた援助について、あるいはロールシャッハ法やWAIS等の心理アセスメントについて、それぞれ臨床実践経験の豊かな講師陣が充実した教育内容を展開しています。援助の対象としては、子どもから高齢者まで、さらに医療臨床・教育臨床・福祉臨床・産業臨床など広範囲をカバーしています。とりわけ心理実践等の臨床教育・訓練を充実させています。
- (2) 附属の心理相談室での心理臨床活動が義務とされ、各自が継続面接のケースを担当するように指導されます。来談者が多く、実習教育のための『心理相談室紀要』が充実しています。学生も事例研究論文を投稿することができます。
- (3) 毎週木曜日には、15:20から20:00まで必修の授業を行っています。特に修士課程および博士後期課程のすべての学生参加が義務付けられている合同カンファレンスでは、積極的なディスカッションが行われています。
- (4) 平日の昼間を利用した学外諸施設(大学病院・総合病院・クリニック・教育相談機関・児童養護施設など)で修士2年間を通して3カ所以上の実習機関で心理実践実習を行います。実習費として、年間50,000円を徴収し、実習の充実を図っています。
- (5) 学生の自主的な研究活動を奨励しており、教員の援助を得て、それぞれ活動しています。本学院生と修了生、さらには他大学院生や専門家及び関連職種との交流と研鑽を目的に研究会や講演会を開催しています。
- (6) 外部講師による講演会や本学教員による「公開講座」を開催しています。また、学術大会や各種研修会・研究会、シンポジウムを本学教員が中心となって開催しています。これらの企画を運営する中で、学内外の大学院生や専門職および関連職種との交流と研鑽の機会を持てるよう積極的に取り組んでいます。
- (7) 博士後期課程では、現場における臨床経験をもとに、研究をさらに深め、心理専門職としての自身の技能を向上させるとともに、指導者ともなりうる人材の育成を目指しています。相談室の活動・カンファレンスにも関与して頂いています。
- (8) 修了生の進路としては、教育相談室、スクールカウンセラー、大学学生相談室などの教育領域、クリニックや病院などの医療領域、企業のメンタルヘルス部門などの産業領域、児童相談所、乳児院など福祉領域等、多岐にわたっています。地域の私設心理相談機関や国家公務員の心理職として活躍している修了生もいます。
- (9) 臨床心理学領域は、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして、2016(平成28)年度の「職業実践力育成プログラム(BP)」に文部科学省から認定されました。

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次		期 間	授業 方法	開講時期(予定)			
		必修	選択	1年	2年			2024年度		2025年度	
								前期	後期	前期	後期
臨床心理学領域	人間科学研究法基礎論		2	○	○	半期	講義	●		●	
	臨床心理学特論Ⅰ (修士論文指導)	4		○		通年	演習	●		●	●
	臨床心理学特論Ⅱ (修士論文指導)	4			○	通年	演習	●	●	●	●
	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	2		○		半期	講義	●		●	
	臨床心理面接特論Ⅱ	2		○		半期	講義		●		●
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2		○		半期	演習	●		●	
	臨床心理査定演習Ⅱ	2		○		半期	演習		●		●
	臨床心理基礎実習	2		○		通年	実習	●	●	●	●
	心理実践実習Ⅰ	1		○		半期	実習		●		●
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)	1			○	半期	実習	●		●	
	臨床心理実習Ⅱ	1			○	半期	実習		●		●
	心理実践実習Ⅲ	1			○	半期	実習		●		●
	心理療法特論		2	○	○	半期	講義	●		●	
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2	○	○	半期	講義	●		●		

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次		期	授業方法	開講時期(予定)			
		必修	選択	1年	2年			2024年度		2025年度	
								前期	後期	前期	後期
臨床心理学領域	教育分野に関する理論と支援の展開		2		○	半期	講義	●			●
	臨床心理学研究法特論		2	○	○	半期	講義		●		●
	臨床精神薬理学特論		2	○	○	半期	講義	●			●
	行動療法特論		2	○	○	半期	講義		●		●
	集団力学特論		2	○	○	半期	講義	●			●
	福祉分野に関する理論と支援の展開		2	○	○	半期	講義		●		●
	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2	○	○	半期	講義	●			●
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開		2	○	○	半期	講義		●		●
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践		2	○	○	半期	講義		●		●
	心の健康教育に関する理論と実践		2		○	半期	講義		●		●
心理統計法特論		2	○	○	半期	講義	●			●	

「臨床心理士」受験資格取得について

日本臨床心理士資格認定協会認定資格の「臨床心理士」受験資格を取得するためには、下記の臨床心理士受験資格課程科目の必修科目から9科目20単位、選択必修科目群(A群、B群、C群、D群、E群)からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、合計30単位を修得する必要があります。

臨床心理士受験資格課程科目

区分	分野	授業科目	配当年次	単位数		授業方法	備考
				必修	選択		
臨床心理士受験資格課程科目	必修科目	臨床心理学特論Ⅰ(修士論文指導)	1	4		演習	通年
		臨床心理学特論Ⅱ(修士論文指導)	2	4		演習	通年
		臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	1	2		講義	
		臨床心理面接特論Ⅱ	1	2		講義	
		臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	1	2		演習	
		臨床心理査定演習Ⅱ	1	2		演習	
		臨床心理基礎実習	1	2		実習	通年
		臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅱ)	2	1		実習	
		臨床心理実習Ⅱ	2	1		実習	
	選択必修科目群	A 臨床心理学研究法特論	1・2		2	講義	
		心理統計法特論	1・2		2	講義	
		B 乳幼児発達心理学特論	1・2		2	講義	
		思春期・青年期発達心理学特論	1・2		2	講義	
		C 集団力学特論	1・2		2	講義	
		犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	1・2		2	講義	
		精神医学における生と死	1・2		2	講義	
		D 精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	1・2		2	講義	
		ターミナルケア論	1・2		2	講義	
		臨床精神薬理学特論	1・2		2	講義	
		E 心理療法特論	1・2		2	講義	
		行動療法特論	1・2		2	講義	

国家資格「公認心理師」受験資格取得について

公認心理師受験資格を取得するためには、大学において公認心理師法第7条第1号及び第2号の省令で定める科目を単位修得している必要があります。（卒業した大学に確認してください。）さらに、学則第15条の規定により修士課程の修了が認められ、下表に定める所定の公認心理師受験資格科目の必修科目12科目21単位を修得しなければなりません。（臨床心理学領域在学生に限る。）

公認心理師受験資格課程科目

区分	授業科目	配当年次	単位数		授業方法	備考
			必修	選択		
公認心理師受験資格課程科目	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2	2		講義	
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2	2		講義	
	教育分野に関する理論と支援の展開	2	2		講義	
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2	2		講義	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2	2		講義	
	臨床心理査定演習I（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2		演習	
	臨床心理面接特論I（心理支援に関する理論と実践）	1	2		講義	
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1・2	2		講義	
	心の健康教育に関する理論と実践	2	2		講義	
	心理実践実習I	1	1		実習	（注）
	臨床心理実習I（心理実践実習II）	2	1		実習	
	心理実践実習III	2	1		実習	

（注）保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野の内で3分野以上に関する施設で450時間以上の実習を行う（ただし、医療機関の実習は必須である）。また、担当ケースに関する実習は270時間以上の実習をする（その内で、学外実習での実習は90時間以上実施する）。





臨床心理学領域
橋倉 道枝

臨床心理学領域

私は人に話を聴いてもらって気が楽になることが多く、小さい頃から私も人の話を聴ける人になりたいと思っていました。人の気持ちを大切に、それを将来に繋げたいと思い、大学は心理学部に進学しました。

大学では現実療法のゼミに加入。他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられるという「選択理論」を学びました。

卒業後は人の思いを大切にしたいと思い、お客様の思いを形にするサービス業に就き、10数年勤務しました。様々な方と出会う中、悩みの相談をうけたときに、きちんと知識を持って寄り添えたら良かったと思う場面に出会いました。それがきっかけで、カウンセリングを学びたいと強く思うようになり、進学を考えるようになりました。

心理系の大学院を調べていくうちに、社会人大学院であり、グリーンケアやターミナルケアなどの緩和ケアも学べる本大学院に出会いました。過去問題の閲覧時に大学院の見学をし、ここで学ぶイメージができてきました。受験勉強は過去問題を繰り返し勉強しました。

大学院の先生方は、ていねいでわかりやすく、熱心な講義です。今、実習は週1日、大学病院に行っています。緩和ケアの回診にも同席させてもらい、患者さんやご家族との接し方等、大変勉強になっています。

将来は、公認心理師と臨床心理士の資格を取得し、医療機関で緩和ケアの仕事をしたいと思っています。

臨床心理学領域

小学生時代、親友がいじめに遭って不登校になり、本人だけでなく自分もとても辛い思いをしたことがありました。その時、周りの人からの助けが大切だと感じていました。この経験が後の進路選択にも大きく影響し、心理学を学べ、公認心理師のカリキュラムがある大学に進学しました。

心理学を学べば人の心がわかるというイメージだったのですが、大学での心理学の授業は思っていた内容と少し違っていました。様々な社会現象の裏付け、理論づけ等の講義でしたが、ここで知らないことを学ぶ楽しさを知りました。大学の实習先で最も印象的なのは乳児院です。乳児院の心理士の先生を見て、自分の将来がはっきり見えてきました。心理学を学び、人の役に立ちたいと思っていました。公認心理師受験資格取得のため、友人と大学院進学を目指しました。

大学院に入学してから、親元離れて一人暮らしを始めました。勉強も私生活も初めてのことばかり。日中はアルバイト、夜は大学院で授業、帰宅してから夕食後の課題作成など、生活リズムが変わってしまいました。少し戸惑いながらも、様々なことに挑戦してみたいというチャレンジ精神で克服してきました。大学院の授業はより深く、実践的な内容が多いです。実習は週1日、病院に行っています。現場だからこそ問題もあり、講義で学ぶことだけでは対応できず、経験が必要であることを実感しました。本大学院は実習先が豊富で選択肢が多く充実しています。

将来は、心理士として医療機関で経験を積み、その後教育機関等で子どもたちのメンタルケアをしたいと思っています。



臨床心理学領域
藤本 玲華

◇臨床心理学領域修了者 主な修士論文題目と論文指導教員一覧

修士論文題目	指導教員
ゲーム依存傾向における攻撃性と自己愛傾向の関連	角藤 比呂志
マインドフルネス呼吸瞑想とアロマセラピーの心理的变化に関する比較研究	角藤 比呂志
心的外傷後成長 (PTG) と「ゆるし (forgiveness)」に関する臨床心理学的基礎研究	小坂 和子
社会人の人事異動における対人関係に関する一考察 —あいまいさへの非寛容とP-Fスタディにみる個人特性に着目して—	小坂 和子
思春期・青年期の子どもをもつ母親から見た母子関係イメージ —円環イメージ画とアサーションの視点から—	小坂 和子
アイデンティティと過剰適応との関連についての検討 —青年期の心理的距離に注目して—	篠原 道夫
50代女性の喪失と獲得に伴う心理的な体験と時間的展望に関する研究	長谷川 明弘
SNS相談員の架空事例についての把握とコーピングについて	長谷川 明弘
摂食障害傾向とダイエット行動との関連 —友人との関わりに着目して—	福田 周
風景構成法における余白の意味について —空白処理プロセスと曖昧さへの態度の観点から—	福田 周
青年期女子の過剰適応傾向の形成過程について —児童期以降の成長の観点から—	前川 美行
青年期女子における居場所についての研究 —室内画にみられる特徴との関連から—	前川 美行
風景構成法における彩色の構成的機能の検討 —風景構成法・スクリブル法・風景ぬり絵の描画過程の比較—	前川 美行



人間科学研究科長

福田 周 教授
(教育学修士)

世界規模での災害や環境変動に見舞われ、これまで当たり前であった生活や社会が大きく揺らぐ時代になってきています。そうした困難に様々な形で向き合っていないといけない現代において、人はどうあるべきか、人と人との関係はどうあるべきか、さらには人が社会や環境にどのような影響を与えうるのかといった人間科学という学問の存在はこれからますます必要不可欠になっていくでしょう。

本研究科ではこうした人間関係や社会生活に直接関わる多様な理解と援助に関する専門性を培うことを目的としています。そして、それを社会に還元する実践的な力を有した専門家の育成を目指しています。

○専門分野:臨床心理学

○研究テーマ:

- (1) 描画療法・夢分析に関する治療のプロセスおよび数量的研究。
- (2) 青年期・成人期前期における対人関係および心的様相に関する研究。
- (3) 病院臨床、特に精神病棟・発達障害科における心理療法プロセスおよび臨床心理学的地域援助。

○指導可能なテーマ:病院臨床、発達障害、芸術療法、夢分析、地域援助、個人心理療法、臨床心理学における数量的研究等

○担当科目:臨床心理学特論I・II、臨床心理基礎実習、臨床心理実習、心理実践実習、家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践、心の健康教育に関する理論と実践、心理統計法調査研究(D)、特殊研究(D)

○主な所属学会:日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、日本ユング心理学会、日本芸術療法学会、日本描画テスト・描画療法学会、日本発達心理学会、日本パーソナリティ心理学会



角藤 比呂志 教授
(医学博士)

○専門分野:臨床心理学、心理療法(統合的心理療法)、心理査定(主にロールシャッハ法・WAIS知能検査等)、精神科臨床臨床等

○研究テーマ: 1) 効果的で効率的な統合的心理療法の探求(ブリーフサイコセラピー、精神分析、認知行動療法、家族療法 etc.) 2) ロールシャッハ法の治療的効力(治療的アセスメント)についての実践と研究 3) トラウマケア(マインドフルネス、EMDR、EFT、ブレインスポッティング、その他)

○指導可能なテーマ:医療保健領域の臨床心理研究(心理査定、心理療法等)ほか

○担当科目:臨床心理学特論I・II、臨床心理査定演習I(心理的アセスメントに関する理論と支援の展開)・II、臨床心理実習、心理実践実習、心の健康教育に関する理論と実践、臨床心理査定研究(D)、特殊研究(D)

○主な所属学会:日本心理臨床学会、日本マインドフルネス学会、日本ブリーフサイコセラピー学会、日本EMDR学会、日本催眠医学心理学会



小坂 和子 教授
(教育学修士)

○専門分野:臨床心理学・分析心理学

○研究テーマ:力動的的心理療法、教育臨床、文化と心理療法、分析心理学

○指導可能なテーマ:力動的的心理療法(分析心理学・対象関係論)、女性とライフサイクル、夢分析、イメージ論(文化論、遊び、象徴、自己概念等)、思春期・青年期臨床

○担当科目:臨床心理学特論I・II、臨床心理面接特論I(心理支援に関する理論と実践)・II、臨床心理実習、心理実践実習、心の健康教育に関する理論と実践、心理療法研究(D)、特殊研究(D)

○主な所属学会:日本心理臨床学会、日本心理学会、日本箱庭療法学会、日本精神分析学会、異文化間教育学会、日本思春期青年期精神医学会、日本学生相談学会、日本ユング心理学会



篠原 道夫 教授
(修士(教育学))

○専門分野:臨床心理学

○研究テーマ:(1) 心理療法を通してみた児童期・青年期の心理的世界の研究、(2) 箱庭療法とその基礎理論としてユング心理学の研究、(3) 精神分析的発達理論とその心理療法への応用の研究

○指導可能なテーマ:ユング心理学、箱庭療法、遊戯療法、描画療法、精神分析学、分離個体化、対象恒常性、思春期/青年期の病理、教育相談、分離不安、不登校、場面緘黙、チック、吃音、被虐待、ひきこもり、親の支援

○担当科目:臨床心理学特論I・II、臨床心理基礎実習、臨床心理実習、心理実践実習、教育分野に関する理論と支援の展開、心の健康教育に関する理論と実践、臨床心理学研究(D)、特殊研究(D)

○主な所属学会:日本箱庭療法学会、日本ユング心理学会、日本心理臨床学会、国際箱庭療法学会(ISST)



前川 美行 教授
(博士(教育学))

○専門分野:臨床心理学・ユング派分析家

○研究テーマ:分析心理学・夢分析・箱庭療法・描画療法・イメージによる心理的変容の研究、自閉症スペクトラム・自己感・身体性・問題、“生活の場”における臨床実践

○指導可能なテーマ:分析心理学、夢分析、箱庭療法、描画療法の機序など、身体性、自己感、自閉症スペクトラム、乳幼児と母親への心理的援助、生活の場”における心理臨床実践

○担当科目:臨床心理学特論I・II、臨床心理基礎実習、臨床心理実習、心理実践実習、産業・労働分野に関する理論と支援の展開、心の健康教育に関する理論と実践、心理臨床実践研究(D)、特殊研究(D)

○主な所属学会:日本心理臨床学会、日本箱庭療法学会、日本ユング心理学会、日本学生相談学会、日本描画テスト・描画療法学会、世界乳幼児精神保健学会WAIMH、IAAP(International Association for Analytical Psychology)、AJAJ(日本ユング派分析家協会)



長谷川 明弘 教授
(博士(都市科学))

○専門分野:臨床心理学、心理療法(ブリーフサイコセラピー;ブリーフセラピー、臨床動作法、催眠法)。個人、家族、集団、組織を対象として生涯にわたる発達段階への支援。

○研究テーマ:

- (1) 効果的で効率的な実践を目指そうとするブリーフサイコセラピーの実践研究。特にブリーフセラピー・家族療法、臨床動作法、催眠法の適用
- (2) 心理学の専門職養成に限定しない対人援助職の養成プログラムの検討
- (3) 資源(リソース)としての生きがい

○指導可能なテーマ:個人、家族、集団、組織を対象として生涯にわたる発達段階への支援を通じて、教育(発達障害、学生相談含む)や医療(特に心療内科)や産業(特にEAP)、福祉(特に児童相談所)領域に加えて「こころ」と「からだ」を取り上げた健康や電話相談に関する実証研究。心理学の研究である以上、実証的な手法、つまりデータに基づいた考察が必要となります。質ならびに量による研究手法を適用した臨床心理学の研究を指導します。

○担当科目:臨床心理学特論I・II、臨床心理基礎実習、臨床心理実習、心理実践実習、心理療法特論、心の健康教育に関する理論と実践

○主な所属学会:日本ブリーフサイコセラピー学会、日本催眠医学心理学会、日本臨床動作学会、日本心理臨床学会、日本心理学会ほか

※ (D) は博士後期課程科目

東洋英和こころの相談室

1996年より開始された臨床心理士養成に関する指定大学院制度を受けて、東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科臨床心理学領域が1種指定校として認定されました。臨床心理士養成校の附属相談室として、翌年の1997年に東洋英和こころの相談室が開設されました。また、2018年には公認心理師養成のための実習機関として承認を受けました。当相談室は公認心理師および臨床心理士養成課程における学内実習機関の役割を担うとともに、一般の方にご利用いただける地域貢献型の心理相談機関として現在まで広く周知されています。

相談室の特徴

面接室は、個別面接室が5部屋、プレイルームが4部屋の構成となっています。プレイルームだけではなく、個別の面接室でも箱庭療法ができるようになっておりますし、プレイルームにはお子さんの年代等に配慮した遊具等を設置しており、充実した設備を整えています。

開室時間は、平日の場合、火曜日から金曜日の午後2時から午後8時（月曜日は閉室、木曜日のみ開始が午後1時から）、土曜日は午前9時から午後6時となっています。夜間大学院であることの特徴を生かし、仕事や学校が休みの土曜日や、平日でも仕事帰りあるいは学校帰りに利用しやすい時間帯に開室することで、利用者の方の利便性に配慮して運営しています。

相談室スタッフ

相談室スタッフとして、専任教員6名、院生の実習指導を中心に行う講師3名の計9名の指導スタッフと、事務職員1名がおり、院生の実習指導を行っています。

心理面接

相談室では、個人面接による定期的な継続面接を原則としています。電話による申し込みを経て有資格者（公認心理師および臨床心理士）による受理面接を行い、その後臨床心理学領域の大学院生・特別研究生が面接担当者として教授陣・専門家の指導の下、継続面接を行います。カウンセリング（ことばによる面接）の他に、必要に応じてプレイセラピー（遊戯療法）、箱庭療法、絵画療法、臨床動作法などの諸技法を用いています。また、他機関からの紹介により、知能検査、性格検査、発達検査等の施行、心理アセスメントも行っています。



プレイルーム

実習

当領域の教育の特徴として、臨床実践教育の充実があげられます。公認心理師および臨床心理士資格を持つ指導スタッフ9名が、学外実習機関の実習指導者の先生方と連携し、2年間にわたって臨床実践実習を行っています。必修授業である臨床心理基礎実習（1年次配当）と臨床心理実習（2年次配当）および心理実践実習（1年次後期から2年次）における実習指導教育と連動させながら、相談室での学内実習および多領域にわたる実習機関で学外実習が行われています。

*学内実習

相談室では臨床実践を中心に学内実習を行っています。また、ケースカンファレンスを週1回（木曜日）実施しています。このケースカンファレンスを通して、より多角的な視点をもった臨床実践力を培います。

相談室事例に関しては、指導スタッフによる面接指導に加えて、他の上級専門家にスーパーヴィジョンを受けることも推めています。また、相談室紀要への事例研究論文を執筆することも可能となっています。

*学外実習

夜間大学院の特徴を活かして、学外実習機関への長期間実習を行っています。実習機関は、クリニック、精神科病院、総合病院、児童精神科病院、デイケアなどの医療領域や、教育相談所、適応指導教室などの教育領域、児童養護施設や乳児院などの福祉領域、産業領域などがあります。

実習内容としては、医療機関においては医師の診察の陪席、予診、心理検査担当、集団精神療法への参加などであり、機関によっては心理面接担当が加わることもあります。教育機関や福祉関連機関においては、各種グループへの参加やファシリテーター体験、ケースカンファレンス等への参加があります。また、プレイセラピーを担当する機会のある機関もあります。

どの実習先においても、実習先での指導担当の先生がつき、学内においても指導スタッフによる実習指導を行っています。



面接室

◇人間科学研究科(博士後期課程)カリキュラム

区分	授業科目の名称	単位数		配当年次			期間	授業方法	開講時期(予定)					
		必修	選択	1年	2年	3年			2024年度		2025年度		2026年度	
									前期	後期	前期	後期	前期	後期
人間科学研究科 博士後期課程	教育社会学研究		4	○	○		通年	講義	●	●			●	●
	宗教学研究		4	○	○		通年	〃	●	●			●	●
	神話学研究		2	○	○		半期	〃				●		
	生命倫理研究		4	○	○		通年	〃	●	●			●	●
	臨床死生学研究		4	○	○		通年	〃	●	●			●	●
	臨床心理査定研究		4	○	○		通年	〃				●	●	
	心理療法研究		4	○	○		通年	〃				●	●	
	臨床心理学研究		4	○	○		通年	〃	●	●			●	●
	心理統計法調査研究		4	○	○		通年	〃	●	●			●	●
	心理臨床実践研究		4	○	○		通年	〃	●	●			●	●
	発達心理学研究		4	○	○		通年	〃				●	●	
	特殊研究Ⅰ(研究指導)	4		○			通年	演習	●	●	●	●	●	●
	特殊研究Ⅱ(研究指導)	4			○		通年	〃	●	●	●	●	●	●
	特殊研究Ⅲ(研究指導)	4				○	通年	〃	●	●	●	●	●	●

設置の趣旨と目的

人間科学研究科人間科学専攻博士後期課程では、修士課程において展開してきた人間科学諸領域をさらに高度化し、社会に寄与する人材を養成するために、修士課程との継続性と専門性を考慮しつつ、近年の当該分野における教育研究の方向性や社会的要請、進学

需要などを十分に勘案して、教育課程を構想しました。

2002年度に、死生学と臨床心理学の2分野からスタートしましたが、現在では宗教学、教育学、発育・発達学の分野にまで拡大しています。

教育課程の編成と研究指導の特色

発育・発達学分野では、心身の発達の諸相や、それに伴う養育上の問題等について、発達心理学的視点から研究を行っています。

教育学分野では、主として学校教育、子どもの貧困、格差、家族、ジェンダーに関する問題について学び、研究の指導をしています。様々な先行研究をレビューし、理論的基礎を構築して、さらに実証的分析によって問題にアプローチすることを目指しています。

宗教学分野では、さまざまな宗教現象や文献の比較研究に基づく科目を開設しています。宗教学を専攻する学生は、特に文献的訓練を通して、専門性を高めていくように指導しています。

死生学分野では、主に基礎死生学と臨床死生学を扱い、講義科目として、悲嘆体験者に対する心理的・精神的援助と、臨死患者に対するターミナルケアに関する研究、死生学の思想的および社会的背景についての生命倫理研究を置いています。

臨床心理学領域においては、力動的精神療法に力点を置いた心理療法学と心理査定の立場から、修士課程の教育と連携して、博士後期課程の教育研究を行っています。研究指導では、1年次から臨床研究論文の作成を指導し、臨床心理学領域の学術雑誌へ投稿させています。2年次後半からは、博士論文の作成に取りかかることになります。

研究指導の方法と学位の授与

博士後期課程の修了要件としては、研究指導12単位を含む授業科目20単位の履修が必要です。所定の単位を修得し、博士論文に対する面接試験など付随の試験に合格することによって、博士(人間科学)の学位が授与されます。

研究指導は、学生の研究テーマに応じて、研究指導教員と、それに協力する副研究指導教員で指導を行います。複数の教員による複合的な指導によって、偏りのない指導が受けられるようにしています。学生は1年次と2年次の終わりに、学内の研究成果発表会において教員と在学生の前で研究の進展を発表することが義務づけられているほか、関連学会での研究発表、論文発表の指導を受けます。

研究指導のほかに、学生は講義科目の中から8単位以上を履修します。学生は各自の専門分野に直結した講義や、密接な関連性を有する科目を受講することによって、最先端の研究に触れ、研究の進め方を学ぶことができるでしょう。各自が所属しない分野の教員の講義においても、他分野の方法論から有益な研究上の示唆を得ることによって、幅広い総合的な視野を身につけることができます。

博士論文は、原則として3年次の10月末を期限として提出し、審査を受けることになります。博士論文を提出する際には、専門領域の学会誌に掲載された副論文を添付する必要があります。

◇博士論文題目

博士論文題目	学位取得年度
苦痛と苦悩に対する創造的・多目的アプローチに関する研究	2004年度
心筋梗塞により死に直面し怒りを呈する一人の強迫神経症病者の病む体験の研究	2004年度
ターミナルケアに携わる看護師の態度変容過程に関する研究、前向きにターミナルケアを捉えることができるための要因分析	2005年度
緩和ケアにおける QOL の現状と課題	2005年度
親の喪失を意識した子どものグリーフケア ーターミナル期から死別後における現状と課題ー	2007年度
心理療法を通して生じる子どもイメージ ー「傷ついた治療者」の機能をめぐる分析心理学的一考察ー	2008年度
葬送儀礼や墓の変容における「わたしの死」概念の影響に関する研究	2008年度
現代の社会病理現象としての自殺に関する人間科学的研究 ー「追い込まれた死」の視点からの考察ー	2013年度
日本人キリスト者の神表象研究 ーWesley理論に基づく教会教育の視点からー	2015年度
メソポタミアのアーシブによる儀礼の研究	2019年度
終末期の高齢患者と家族における「死の受容」に関する死生学的研究 ー「生きる希望」という観点から考察する終末期医療に対する患者・家族の思いー	2021年度

国際協力研究科

国際協力専攻 [修士課程]



文部科学省認定「職業実践力育成プログラム(BP)」

New! 科目等履修生推薦入試



専門実践教育訓練指定講座

New! 研究成果で修了



単位互換制度(早稲田大学)



ハイブリッド授業



目的と特色

今日の国際社会に生きるわれわれは、さまざまな課題に直面しています。それらのどれ一つをとっても多様な側面をもち、しかも多くの問題が絡み合っているものです。いま大学院に求められているのは、こうした複雑な問題群を解きほぐし、課題の解決を指向することです。本研究科の掲げる「国際協力」とは、その本来の意味に加えて、問題への取り組みの姿勢を象徴するものでもあります。

カリキュラムの特徴

基礎共通科目群

大学院での学修に求められるアカデミック・スキルの獲得とともに、研究対象である国際社会を理解するためのオリエンテーションとなる科目群です。基礎科目としては、政治学、経済学、社会学などの専門領域における考え方や分析方法を指導する「社会科学研究手法」、英語の研究論文を読みこなすための「Academic English」が開講されます。

また、国際学科目として「国際関係論」、「国際機構論」、「国際開発協力論」などに加えて、特定の課題やタイムリーなテーマを深く掘り下げる「国際社会ワークショップ」も開講されます。

専門科目群

大学院での研究活動を進めていくためには、専門性を高めるための系統的な学修が求められます。一方で研究関心をひろげつつ、他方で研究テーマを絞り込むという、一見矛盾した取り組みが必要となるわけです。本研究科では、こうした専門的学修や研究活動を、専門科目群にコース制を導入することでサポートします。入学者には、オリエンテーションなどを通じて、以下に掲げる2つのコースいずれかを選択してもらい、計画的な履修を促します。

<サステナブル国際協力コース>

2016年に発動された持続可能な開発目標(SDGs)を挙げるまでもなく、サステナビリティ(持続可能性)は開発課題を考える上でのキーワードとなっています。この概念の重要性は、開発分野にとどまるものではなく、いまやあらゆる課題の解決に欠かせません。このコースで提供される「地球環境問題特論」はもちろん、「国際防災特論」、「平和構築・紛争予防外交特論」でも、持続可能性がカギとなります。SDGsの達成とも深く関わる「国際教育特論」、「国際保健医療政策特論」など、興味深い科目がそろっています。

本研究科の設立以来、社会科学分野を中心に研究指導を行っていましたが、夜間や週末に開講する社会人大学院として、課題の解決にも重きをおいています。新たなカリキュラムでは、さらにサステナビリティ(持続可能性)という要素を加えることで、より効果的な「国際協力」を追及してゆきます。

<国際政治経済・地域研究コース>

国際関係で生起する現象を分析する上で学際研究の有効性には定評があります。従来の国際政治学、国際経済学をはじめとする学問領域に精通した教員が、具体的な分析対象への学際的なアプローチを提示します。アジア、アラブ・中東、ヨーロッパ・EU、北アメリカ、アフリカなど地域研究科目だけではなく、「国際安全保障特論」、「難民・移民問題特論」といった注目すべき 이슈、さらにビジネスやメディアに関連する科目も用意していますので、幅広い視野をもって課題を追及することができます。

演習科目

入学後、院生それぞれにアカデミックアドバイザーが指名され、学位取得へ向けた研究方針のアドバイスを受けます。一年次では、指導教員の下で「基礎演習I・II」を履修し、自らの研究テーマを絞っていきます。さらに二年次以降には「演習I・II」で研究の深化と高度化に入ります。

少人数制は本研究科の特長ですが、とりわけ演習科目では、しばしばマン・ツー・マンの指導も行われています。「基礎演習I・II」や「演習I・II」については開講時限を固定せず、指導教員と話し合いながら時間や場所を決める集中講義方式をとっています。これは働きながら学ぶ社会人大学院ならではの仕組みです。

早稲田大学との単位互換制度

2020年4月より本大学院国際協力研究科は、早稲田大学大学院社会科学部研究科修士課程との単位互換制度を開始いたしました。

本大学院国際協力研究科の学生は、早稲田大学大学院社会科学部研究科の地球社会論専攻と政策科学論専攻の授業を履修することができ、取得単位のうち10単位を上限として修了必要単位に加えることができます。

全講義科目ハイブリッド授業

国際協力研究科の講義科目をハイブリッド授業(大学院での対面授業をZOOMによるオンラインで同時配信)で行っています。仕事の繁忙期や諸事情で大学院に通学できない時など、その日の都合に応じて、対面授業かオンライン授業かを選べます。

修士論文または研究成果を選択できます

「修士論文」の提出だけでなく「研究成果」の提出で修士号を得ることができます。研究成果は指導教員が示した書籍リスト(リーディングリスト)から学生が書籍を選び、そのレポート(コア・レビュー)を提出します。例えば4月入学の場合、1年生前期末(7月)、1年生後期末(1月)、2年生前期末(7月)、2年生後期末(1月)の4回提出。最終審査面接に合格することで修士号を得ることができます。

修了に必要な単位は、修士論文提出と同じく、2年間で30単位です。

入学前に研究成果を選択した方は、入学試験出願時の研究計画書の提出は不要です。

新設!国際協力研究科科目等履修生推薦入試

入学試験出願時から遡って過去5年間(この5年間は学生募集要項で入試ごとに期間を定めます。学生募集要項を参照してください)に国際協力研究科の科目等履修生またはプログラム履修生として在籍し、国際協力研究科の科目を2科目4単位以上単位修得し、少なくとも2科目の成績が「優」だった方は、国際協力研究科の科目等履修生推薦入試を受験することができます。

試験科目は「面接」のみです。筆記試験は免除されます。

科目等履修生として修得した単位は、履修修了後5年以内に正規生として入学した場合、10単位を上限として修了要件単位として認定されます。



区分		授業科目の名称	単位数		配当年次		期 間	授業 方法	開講時期(予定)			
			必修	選択	1 年	2 年			2024年度		2025年度	
									前期	後期	前期	後期
基礎 共通 科目 群	基礎 科目	社会科学research手法	2		○	○	半期	講義	●		●	
		Academic English		2	○	○	半期	講義	●		●	
	国際 学 科 目	サステイナビリティ学		2	○	○	半期	講義		●		●
		国際関係論		2	○	○	半期	講義	●		●	
		国際機構論		2	○	○	半期	講義		●		●
		国際法特論		2	○	○	半期	講義	●		●	
		国際開発協力論		2	○	○	半期	講義		●		●
		国際社会ワークショップ		2	○	○	半期	講義	●		●	
演 習 科 目	演 習 科 目	基礎演習Ⅰ(修士論文指導)	2		○		半期	演習	●	●	●	●
		基礎演習Ⅱ(修士論文指導)	2		○		半期	演習	●	●	●	●
		演習Ⅰ(修士論文指導)	2			○	半期	演習	●	●	●	●
		演習Ⅱ(修士論文指導)	2			○	半期	演習	●	●	●	●
専 門 科 目 群	サス テ イ ナ ブル 国際 協力 コース	地球環境問題特論		2	○	○	半期	講義			●	
		国際教育特論		2	○	○	半期	講義	●			
		企業と開発・ソーシャル・ビジネス		2	○	○	半期	講義		●		
		国際保健医療政策特論		2	○	○	半期	講義	●			
		国際社会保障と国際貢献		2	○	○	半期	講義		●		
		国際防災特論		2	○	○	半期	講義		●		●
		公衆衛生史特論		2	○	○	半期	講義	●		●	
		平和構築・紛争予防外交特論		2	○	○	半期	講義		●		
		地方自治体と国際協力		2	○	○	半期	講義			●	
		ODAと開発		2	○	○	半期	講義				●
	国際 政治 経済・ 地域 研究 コース	ビジネス・企業と国際協力		2	○	○	半期	講義				●
		国際メディア特論		2	○	○	半期	講義				●
		現代経済特論		2	○	○	半期	講義	●			
		開発経済特論		2	○	○	半期	講義		●		
		国際安全保障特論		2	○	○	半期	講義		●		●
		難民・移民問題特論		2	○	○	半期	講義		●		
		アジア地域特論		2	○	○	半期	講義	●		●	
		アラブ・中東地域特論		2	○	○	半期	講義		●		●
		ヨーロッパ・EU地域特論		2	○	○	半期	講義	●		●	
		北アメリカ地域特論		2	○	○	半期	講義		●		●
		アフリカ地域特論		2	○	○	半期	講義	●		●	
		特殊 講義	Contemporary Issues A(国際協力特殊講義)		2	○	○	半期	講義	●		
Contemporary Issues B(国際社会特殊講義)			2	○	○	半期	講義	●		●		

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



国際協力研究科

高校時代から海外大学への進学準備を進め、ニュージーランドの大学に進学し環境学を専攻しました。

卒業後はタイのIT企業に就職。海外で働ける機会を得ることができました。日本に帰国し、電子部品商社に転職。海外駐在を目指すのが、希望は叶いませんでした。そのような時、JICAの海外協力隊の広告が目に入り、環境分野で海外支援ができないかと思うようになっていました。不足していた環境事業での業務経験を経て、JICAの海外協力隊に参加。ケニアでは小中学生に環境教育、JICA九州では広報事業、JICAベトナムではNGOデスクコーディネーターとして勤務してきました。

ケニアでの活動の際、幼い子どもが原因不明の病気で亡くなったことがありました。収入が多ければ、高度な医療を受けて命を救うことができたかもしれません。現地の方の収入向上手法を大学院で研究できないかと考えていました。

JICA勤務時代、現地で関わる人は修士号や博士号を持ち、学位がないと発言に重みがないことを実感したのも大学院進学を決意した理由です。

大学院では、ケニアのマリンディにおけるツーリズムと地域振興を研究しています。

本大学院は、少人数での授業が多く、教員と学生の距離がとて近く感じています。1対1の授業もあり、修士論文執筆に関係する内容に変更して指導していただいています。平日夜間と土曜日開講だけでなく、対面授業をオンラインで配信しているハイブリッド授業も魅力です。様々なバックグラウンドを持つ、教員と学生からは刺激を受ける毎日です。

修了後は、現在研究しているケニアのマリンディで観光事業を行い、途上国開発分野で活躍することを目指しています。



国際協力研究科

赤井 雄俊

◇国際協力研究科修士 主な修士論文題目と論文指導教員一覧

修士論文題目	指導教員
エジプト・ダミエッタの障害者支援についての考察	池田 明史
安全な水の持続的供給システム ―日本とモルディブを比較して―	河野 毅
在留外国人の保健医療アクセスの考察 ―国際化する相模原市を例に―	河野 毅
非営利組織の持続可能な運営について ～ICTの導入の恩恵と課題～	河野 毅
EUのロマ枠組政策の現状と課題	小久保 康之
冷戦後の日本の対外戦略 ―中国・北朝鮮に対する経済外交―	今野 茂充
岸政権の対中南米外交 ―「官民連携」による経済成長の追求―	今野 茂充
応用演劇を活用した社会的包摂における公共劇場の役割 ―イギリスの経験を踏まえた日本への適応策の検討―	桜井 愛子
イクボス概念の構造分析 ―現代日本のワークライフバランス―	平体 由美
1920年代アメリカにおけるフラッパーの服装規範 ―ジェンダー、階級、メディア―	平体 由美
反移民感情とバイリンガル教育支持の接合 ―コロラド州憲法修正第31号提案をめぐる―	平体 由美
人身取引廃絶レジームの展開と課題 ―日本の事例を中心として―	望月 克哉
在日外国人をめぐる就学前教育の問題について ―1980年代に子育てしたフィリピン人女性を中心に―	望月 克哉
リベリアにおける紛争解決 ―平和構築活動の課題―	望月 克哉
ベナンの初等教育現場におけるマラリア教育の実践 ―社会的背景と人々の予防概念理解の重要性―	望月 克哉
日本企業による社会貢献活動の定着と変容	望月 克哉
独立後アフリカにおける都市部の食糧供給 ―ムバラク政権下エジプトの小麦セクターの発展―	望月 克哉
現代中国における青少年犯罪問題 ―政府の対策を中心として―	望月 敏弘
教育と格差 ―若者の雇用と階層再生産―	吉川 健治
持続可能な学校給食プログラムの一考察 ―地産地消型への発展とその意義―	吉川 健治



国際協力研究科長

河野 毅 教授
(Ph.D.政治学)

戦争と平和、持続可能な消費と生産、地球温暖化対策、人工知能との共存など、考えるべき課題は沢山あります。そして、これらの課題は私たち人類の考える力を試す課題であるとも言えます。私たちは、この大学院で数ある課題をしっかりと考える場を提供します。カリキュラムで重視するのは自分の頭でものを考える力です。豊かな発想、確かな分析、そして冷静な判断は、どの時代でも人類に求められる能力＝知性です。その知性を磨きたい方々を歓迎します。

著書・論文

「ミャンマーの混乱 限られた役割の中で国連は何かできるか」熊谷嘉隆&水野智仁編著「秋田から考えるアジアの地域協力」(2022年12月)芦書房、pp.195-213.

「地球温暖化対策の難しさとCOP26の成果」東洋英和女学院大学国際関係研究所、「国際関係研究」第2号 2022年3月発行pp.1-17.

“To Combat Extremism, How to Frame Religion Matters: Southeast Asia in Comparative Perspective,” *Studia Islamika* Vol. 28, No 3(2021), pp.483-515.

(共著)アンダーウッド ボール R・平田 由美 河野 毅・コウオジェイ マグダレナ

「協働的授業研究(CLR)がもたらすFDの機会と総合的授業改善の可能性 ― 中規模クラスにおけるアクティブ・ラーニングの試み」東洋英和女学院大学「人文・社会科学論集」第38号 2021年3月、pp.55-74.

「国連におけるSDGsの発祥からみる人類の進歩」桜井愛子・平田由美編著「社会科学からみるSDGs」(2022年4月)小島遊書房、pp.278-297.

「政治改革と法律扶助運動」編者：島田 弦「叢書 アジア法整備支援 インドネシア：民主化とグローバリゼーションへの挑戦」(2020年6月)旬報社、pp.477-515.

- 専門分野：比較政治、国連の役割、地球規模課題・国境を越える課題、社会運動
- 研究テーマ：グローバルに取り組みなければならない多くの課題（麻薬、武器密輸、人身取引などの組織犯罪、テロ、気候変動、公害など）の研究を通じ、対策に取り組む人間一人一人の可能性を追求しています。
- 指導可能なテーマ：グローバルガバナンス、社会運動の視点から見た上記の課題。
- 担当科目：国際機構論、国際社会ワークショップ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：American Political Science Association, American Sociological Association, 比較政治学会、国際安全保障学会、アジア政経学会、Association for Asian Studies



小久保 康之 教授
(法学修士)

- 専門分野：国際政治学、EU・ヨーロッパ政治論
- 研究テーマ：EU統合とヨーロッパ政治システムの変容プロセス、EUの政治的正統性、ヨーロッパ小国と欧州統合、日・EU関係の発展、など
- 指導可能なテーマ：現代のヨーロッパ政治（EU統合、ヨーロッパ各国の内外政策）に関するもの、日・ヨーロッパ関係に関するもの、ヨーロッパを中心とした国際関係史・外交史に関するもの、その他国際政治学全般でも指導できる。
- 担当科目：ヨーロッパ・EU地域特論、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本EU学会（理事）、日本国際政治学会、日本政治学会、国際法学会



今野 茂充 教授
(博士(法学))

- 専門分野：国際政治学、安全保障研究
- 研究テーマ：国際関係理論（特にリアリズム）、東アジアの安全保障、第一次世界大戦の開戦原因、研究方法論（理論と歴史）
- 指導可能なテーマ：国際関係理論、19世紀以降の大国間政治、対外戦略や安全保障などに関わるテーマ
- 担当科目：国際関係論、国際安全保障特論、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本国際政治学会、国際安全保障学会、IISS、ISA



桜井 愛子 教授
(学術博士)

- 専門分野：国際教育開発、教育復興・防災教育
- 研究テーマ：包括的学校防災の推進に関する国際比較研究、持続可能な防災教育推進モデルの開発に関する実践研究
- 指導可能なテーマ：国際教育協力、防災教育
- 担当科目：国際教育特論、国際防災特論、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本比較教育学会、日本安全教育学会、国際開発学会、自然災害学会、等



平田 由美 教授
(博士(学術))

- 専門分野：アメリカ史、公衆衛生史
- 研究テーマ：20世紀前半アメリカの公衆衛生行政史
- 指導可能なテーマ：アメリカ政治史、社会史、医療史
- 担当科目：公衆衛生史特論、北アメリカ地域特論、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：アメリカ学会、社会経済史学会



福田 保 教授
(Ph.D. in Political Science and International Relations)

- 専門分野：国際政治学、アジア太平洋の国際関係、東南アジア国際関係
- 研究テーマ：アジア太平洋における多国間主義・地域制度の動態、東南アジア諸国の対外政策、ASEAN
- 指導可能なテーマ：アジア太平洋および東南アジアの国際関係、東南アジア諸国の対外政策、東南アジア政治
- 担当科目：社会科学研究方法、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本国際政治学会、国際安全保障学会、アジア政経学会



望月 克哉 教授
(国際学修士)

- 専門分野：国際関係論、アフリカ地域研究
- 研究テーマ：開発協力におけるクロス・カッティング・イシュー（環境、ジェンダー）、中国・アフリカ関係の史的展開
- 指導可能なテーマ：人間の安全保障、アフリカ地域研究
- 担当科目：アフリカ地域特論、ODAと開発、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本国際政治学会、日本アフリカ学会



望月 敏弘 教授
(法学修士)

- 専門分野：近現代中国政治史および日中関係論
- 研究テーマ：「第二次上海事変（1937年）の研究」「現代中国の対日認識」日中関係を主な研究対象とし、歴史研究と現状分析を行っています。
- 指導可能なテーマ：20世紀から現在にいたる中国の政治と外交、とりわけ日中関係をめぐる諸問題です。
- 担当科目：アジア地域特論、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本国際政治学会、アジア政経学会



吉川 健治 教授
(文化科学修士)

- 専門分野：社会開発論、国際開発協力論、NGO・NPO論
- 研究テーマ：国際開発における社会開発、国際NGOの動向、市民社会の展開などに関心がある。また、国際NGOスタッフとして東南アジアには滞在経験もあるので、東南アジア（インドシナ地域）の動向も注視している。
- 指導可能なテーマ：東南アジアの開発、国際協力理論、NGO論、教育問題、社会開発論など
- 担当科目：サステナビリティ学、国際開発協力論、Contemporary Issues B（国際社会特殊講義）、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ
- 主な所属学会：日本国際政治学会、国際開発学会、北東アジア学会



田中 極子 准教授
(博士(学術))

- 専門分野：集団的安全保障、国連研究、軍縮・不拡散
- 研究テーマ：国連の集団安全保障体制、大量破壊兵器のデュアルユース管理
- 指導可能なテーマ：国連の集団安全保障（軍縮・不拡散、PKO、WPS）、輸出管理
- 主な所属学会：日本国際政治学会、日本軍縮学会、国連学会、国際安全保障学会
- 担当科目：基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ

時間割 (参考)

人間科学研究科・修士課程 (2022年度前期)

授業時間

曜日	時限	時間
月～金	6	18:30～20:00
	7	20:10～21:40
土	1	9:00～10:30
	2	10:40～12:10
	3	13:00～14:30
	4	14:40～16:10
	5	16:20～17:50
	6	18:00～19:30

月	火	水	木	金	土
集団力学特論 関 百合	臨床心理基礎実習 福田 周	心理統計法特論 廣瀬 毅士	国際理解教育特論 桜井 愛子		
情報教育特論 大崎 章弘	比較教育学特論				
心理療法特論 長谷川 明弘					
日本宗教史特論					
教育分野に関する理論と 支援の展開 篠原 道夫	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する 理論と支援の展開) 藤田 悟郎	精神医学特論(保健医療 分野に関する理論と支援 の展開) 三宅 永	人間科学研究法基礎論 渡部 麻美	臨床心理基礎実習 前川・土井	
臨床心理面接特論I(心理 支援に関する理論と実践) 小坂 和子					
教育社会学特論					

人間科学研究科・博士後期課程 (2022年度前期)

月	火	水	木	金	土
臨床心理学研究 篠原 道夫			特殊研究Ⅲ(研究指導) 角藤 比呂志		
宗教思想研究	心理統計法調査研究 福田 周	心理臨床実践研究 前川 美行	特殊研究ⅡⅢ(研究指導) 前川 美行		

国際協力研究科・修士課程 (2022年度前期)

月	火	水	木	金	土
Contemporary Issues A (国際協力特殊講義) 福井 美穂	国際関係論	現代経済特論	国際教育特論 桜井 愛子	公衆衛生史特論 平体 由美	
国際社会ワークショップ 河野 毅		国際保健医療政策特論 稲場 雅紀	Contemporary Issues B (国際社会特殊講義) 吉川 健治	アフリカ地域特論 望月 克哉	

人間科学研究科・修士課程 (2022年度後期)

授業時間

曜日	時限	時間
月～金	6	18:30～20:00
	7	20:10～21:40
土	1	9:00～10:30
	2	10:40～12:10
	3	13:00～14:30
	4	14:40～16:10
	5	16:20～17:50
	6	18:00～19:30

4時限 (15:20～16:50)
M1臨床心理学特論I M2臨床心理学特論II 角藤・小坂・篠原・福田 前川・長谷川・土井
5・6時限 (17:00～20:00)
M1心理実践実習I M2臨床心理実習II 角藤・小坂・篠原・福田 前川・長谷川・土井

月	火	水	木	金	土
臨床心理基礎実習 長谷川 明弘	臨床心理面接特論II 小坂 和子	臨床心理学研究法特論 吉野 大輔	キリスト教幼児教育特論 大川 洋	臨床心理基礎実習 篠原・土井	心の健康教育に関する理論と実践 長谷川以下臨床専任6名
現代社会と教育			神話学 古川 のり子		
行動療法特論 山本 理真子	家族関係・集団・地域社会 における心理支援に関する 理論と実践 福田 周			産業・労働分野に関する 理論と支援の展開 前川 美行	
学校教育と社会					

1	臨床心理査定演習II 角藤 比呂志	幼児教育特論II 塩崎美穂
2	宗教学特論 奥山 倫明	
3	福祉分野に関する 理論と支援の展開 内海 新祐	バイオ・サナトロ ジー特殊研究 田中 智彦
4	発達臨床学特論 久保田 まり	
5	精神医学における生 と死	
6		
7		

人間科学研究科・博士後期課程 (2022年度後期)

月	火	水	木	金	土
臨床心理学研究 篠原 道夫	心理統計法調査研究 福田 周		特殊研究III (研究指導) 角藤 比呂志		臨床死生学研究
		心理臨床実践研究 前川 美行	特殊研究IIIII (研究指導) 前川 美行		

1	宗教学研究 奥山 倫明
2	特殊研究II (研究指導) 田中 智彦
3	
4	生命倫理研究 田中 智彦
5	特殊研究III (研究指導) 久保田 まり
6	教育社会学研究
7	

国際協力研究科・修士課程 (2022年度後期)

月	火	水	木	金	土
平和構築・紛争予防外交 特論 山田 満	国際安全保障特論	開発経済特論 内川 秀二	国際防災特論 桜井 愛子	企業と開発ソーシャル・ビ ジネス 大嶋 淳俊	
難民・移民問題特論 滝澤 三郎	国際社会保障と国際貢献 岡 伸一	国際機構論 河野 毅	北アメリカ地域特論 平体 由美		

1	
2	サステナビリティ学 吉川以下輪講
3	国際開発協力論 吉川 健治
4	アラブ・中東地域特論 池田 明史
5	
6	
7	

科目等履修生

◆科目等履修生

正規に入学しなくても1科目から学べる科目等履修生制度を行っています。両研究科の科目を履修でき、その数に制限はありません（演習科目及び実習科目は履修できません）。出願資格は、修士課程出願資格と同じです。

◆国際協力研究科プログラム履修生制度

国際協力研究科には、科目等履修生のほかに「プログラム履修生制度」があります。
通常の科目等履修生は、半期6カ月ごとに出願しなければなりません。このプログラム履修生制度を利用すれば、一度の選考で最長2年間履修することができます。
履修期間は、6カ月、1年、1年6カ月、2年の中から選べます。
履修する科目数に制限はありません。
本研究科が指定する「サステイナブル国際協力プログラム」「国際政治経済・地域研究プログラム」のどちらかのプログラムから4科目以上単位認定された方には、修了証 (diploma) を授与しています。出願資格は、修士課程出願資格と同じです。

◆科目等履修生、国際協力研究科プログラム履修生制度共通事項

履修した科目の試験に合格した時は、単位を授与します。科目等履修生として修得した単位は、履修終了後5年以内に本研究科に入学した場合、10単位を上限として修了要件単位として認められます。
履修できる科目は、事前に本大学院ホームページでお知らせします。
本大学院の図書室の利用ができ、図書の貸し出しも受けられます。
通学定期の購入、学割の利用はできません。

●費用 (科目等履修生、国際協力研究科プログラム履修生共通)

登 録 料	10,000円
受 講 料	1単位あたり10,000円 (1科目は2単位。受講料は20,000円)

●選考日程 (科目等履修生、国際協力研究科プログラム履修生共通) (選考料 10,000円)

受講期間	研究科	出願期間 <消印有効>	面接日	合格発表	受講手続 <消印有効>
2023年度後期	人間科学研究科 国際協力研究科	8月 7日(月)~ 8月14日(月)	8月26日(土)	8月31日(木)	9月 1日(金)~ 9月 8日(金)
2024年度前期	人間科学研究科 国際協力研究科	2月 5日(月)~ 2月15日(木)	3月 2日(土)	3月 8日(金)	3月 9日(土)~ 3月15日(金)

学 費 等 ・ 奨 学 金

◆学費等納付金

《修士課程》 (単位:円)			《博士後期課程》 (単位:円)		
納付金内訳	入学手続時納付金	次期以降納付金	納付金内訳	入学手続時納付金	次期以降納付金
入学金(入学時のみ納入)(注1)	300,000	—	入学金(入学時のみ納入)(注1)	300,000	—
授業料(注2)	220,000	220,000	授業料(注2)	220,000	220,000
施設設備資金	70,000	70,000	施設設備資金	70,000	70,000
教育充実費	30,000	30,000	教育充実費	30,000	30,000
学生教育研究災害傷害保険料(注3)	200	0	学生教育研究災害傷害保険料	250	0
合 計	620,200	320,000	合 計	620,250	320,000

(注1) 次の該当者は入学金を免除します。(1) 本学の大学院修士課程修了者が再度修士課程に入学する場合。(2) 本学の学部、短期大学(部)及び短期大学(部)専攻科卒業生。

(注2) 長期履修学生制度が適用される場合、金額が変わります。

※人間科学研究科臨床心理学領域入学者は学外実習費として、年間50,000円を徴収します。

(注3) 後期入学者は250円徴収します。

※次の該当者は入学金を免除します。

(1) 本学の大学院修士課程修了者。

(2) 本学の学部、短期大学(部)及び短期大学(部)専攻科卒業生。

◆奨学金制度

日本学生支援機構の奨学金が利用できます。

	貸与月額
第1種(無利子)	修士50,000円、88,000円から選択 博士後期 80,000円、122,000円から選択
第2種(有利子)	50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円から選択

◆長期履修学生制度(臨床心理学領域を除く修士課程の方が利用できます)

長期履修学生制度は、職業等に就いているなど、個人の事情に応じて修士課程の修業年限(2年)を超えて履修することができる制度です。

長期履修学生として認められた場合、授業料は2年間の総額をあらかじめ認められた修業年限(最大4年)で除した額と施設設備資金及び教育充実費をそれぞれの学期に支払います。なお、長期履修学生制度を希望する場合は、入学試験の出願書類と共に必要書類を提出し、審査を受ける必要があります。

※授業料の支払い例

(単位:円)

標準年限2年で修了の場合									
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期					総 額
授 業 料	220,000	220,000	220,000	220,000					880,000
施設設備資金及び教育充実費	100,000	100,000	100,000	100,000					400,000
合 計	320,000	320,000	320,000	320,000					1,280,000
長期履修学生として3年で修了の場合									
	1年目前期	1年目後期	2年目前期	2年目後期	3年目前期	3年目後期			総 額
授 業 料	146,700	146,660	146,660	146,660	146,660	146,660			880,000
施設設備資金及び教育充実費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000			600,000
合 計	246,700	246,660	246,660	246,660	246,660	246,660			1,480,000
長期履修学生として4年で修了の場合									
	1年目前期	1年目後期	2年目前期	2年目後期	3年目前期	3年目後期	4年目前期	4年目後期	総 額
授 業 料	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	880,000
施設設備資金及び教育充実費	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	800,000
合 計	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	210,000	1,680,000

入試説明・相談会

◆入試説明・相談会

入試説明・相談会では大学院の教育研究内容や入試制度等について、研究科、領域、分野ごとに大学院担当教員から詳しくご説明いたします。

オンラインでの個別相談も随時実施しております。
詳細は大学院ホームページに掲載いたしますので、ご覧ください。

研究科	回数	月 日	時 間
人間科学研究科	第1回	2023年 4月22日(土)	15:00(集合)~17:00 オンライン型
	第2回	2023年 5月27日(土)	15:00(集合)~17:00 来場型
	第3回	2023年 7月 1日(土)	
	第4回	2023年10月14日(土)	
	第5回	2023年12月 2日(土)	
国際協力研究科	第1回	2023年 5月27日(土)	13:00(集合)~15:00 オンライン・来場型 同時開催 ハイブリッド方式
	第2回	2023年 7月 1日(土)	
	第3回	2023年10月14日(土)	
	第4回	2023年12月 2日(土)	
	第5回	2024年 1月27日(土)	

※新型コロナウイルス感染状況次第で、内容を変更する場合があります。大学院ホームページをご確認ください。

◆授業見学週間(対面で行います)

当大学院をより深くご理解いただけるよう、実際の大学院の授業に参加していただける機会を設けました。期間中は何科目でも見学ができますので、お気軽にお越しください。見学いただける授業は、決まり次第、当大学院のホームページでお知らせいたします。参加者には入試過去問題を差し上げます。

授業見学週間
2023年 5月22日(月)~ 5月27日(土)
2023年 6月26日(月)~ 7月 1日(土)
2023年10月 9日(月)~10月14日(土)
2023年11月27日(月)~12月 2日(土)

※新型コロナウイルス感染状況次第で、中止する場合があります。大学院ホームページをご確認ください。

◆入試日程

	研究科・領域	出願期間 <すべて消印有効>	試験日	合格発表	入学手続 <すべて消印有効>
2023年度後期入試 (2023年10月入学)	人間科学領域 幼児教育・発達臨床学領域 国際協力研究科 ※国際協力研究科科目等 履修生推薦入試	7月14日(金)~ 7月21日(金)	8月19日(土)	8月29日(火)	8月30日(水)~ 9月 5日(火)
2024年度前期入試 秋季選抜 (2024年4月入学)	人間科学研究科 人間科学専攻 (臨床心理学領域)	8月 7日(月)~ 8月14日(月)	一次 9月 2日(土) 二次 9月 9日(土)	一次 9月 7日(木) 二次 9月14日(木)	9月15日(金)~ 9月25日(月)
	臨床心理学領域 人間科学部卒業生 特別入試	10月23日(月)~ 10月30日(月)	11月18日(土)	11月23日(木)	11月24日(金)~ 12月 1日(金)
	国際協力研究科、 ※国際協力研究科科目等 履修生推薦入試	10月23日(月)~ 10月30日(月)	11月18日(土)	11月23日(木)	11月24日(金)~ 12月 1日(金)
2024年度前期入試 春季選抜 (2024年4月入学)	人間科学研究科 人間科学専攻 (人間科学領域、 幼児教育・発達臨床学領域)	1月 9日(火)~ 1月16日(火)	2月 3日(土)	2月 8日(木)	2月 9日(金)~ 2月16日(金)
	人間科学研究科 人間科学専攻 (臨床心理学領域)		一次 2月 3日(土) 二次 2月10日(土)	一次 2月 8日(木) 二次 2月15日(木)	2月16日(金)~ 2月26日(月)
	国際協力研究科、 ※国際協力研究科科目等 履修生推薦入試	2月 5日(月)~ 2月15日(木)	3月 2日(土)	3月 8日(金)	3月 9日(土)~ 3月15日(金)
	人間科学研究科 ※博士後期課程	1月 9日(火)~ 1月16日(火)	一次 2月 3日(土) 二次 2月10日(土)	一次 2月 8日(木) 二次 2月15日(木)	2月16日(金)~ 2月26日(月)

※国際協力研究科科目等履修生の詳細は19ページをご覧ください。

※博士後期課程の人間科学領域教育学、宗教学の2024年度の募集はありません。

入試結果・過去問題

◆入試結果(2022年度後期入試、2023年度前期入試)

入試区分	課程	研究科・領域・コース	募集人員	志願者	合格者
2022年度 後期入試	修 士	人間科学領域及び 幼児教育・発達臨床学領域	若干名	4	4
		国際協力	若干名	1	1
	合 計			5	5
2023年度 前期入試 (秋季選抜)	修 士	臨床心理学領域	10名	37	15
		国際協力	5名	2	0
	合 計			39	15
2023年度 前期入試 (春季選抜)	博士後期	人間科学	3名	3	0
	修 士	人間科学領域及び 幼児教育・発達臨床学領域	12名	15	10
		臨床心理学領域	8名	20	8
		国際協力	5名	8	8
	合 計			46	26
前期入学試験 合計	博士後期	人間科学	3名	3	0
	修 士	人間科学領域及び 幼児教育・発達臨床学領域	12名	15	10
		臨床心理学領域	18名	57	23
		国際協力	10名	10	8
	合 計		43名	85	41

◆過去問題

過去の入試問題は、東洋英和女学院大学大学院ホームページ(入試情報ページ)に掲載しております。どうぞ、ダウンロードしてご利用ください。

一部、著作権法の都合で掲載できない問題もございますので、ご了承ください。

それ以外の過去の入試問題は、大学院事務室にてご覧いただけます。ご希望の方は、大学院事務室(TEL03-3583-4031、E-mail daigakuin@toyoeiwa.ac.jp)にお申し出ください。

東洋英和女学院大学大学院ホームページ
(入試情報ページ)

<https://www.toyoeiwa.ac.jp/daigakuin/nyushi/index.html>

過去問題閲覧ご希望の方(大学院事務室)

TEL.03-3583-4031

E-mail daigakuin@toyoeiwa.ac.jp

施設案内・沿革

大学院図書室(地下1・2階)

大学院図書室は横浜校地・大学キャンパスにある大学図書館の分室として、主に大学院生の研究をサポートする施設です。本館の大学図書館の施設、資料も利用できます。

大学図書館・大学院図書室合わせて図書約37万冊、雑誌約3,000タイトル、データベース、電子ジャーナル、電子ブックを利用できます。また、これまでに本学に提出された修士論文・博士論文も所蔵しています。(博士論文の一部はウェブ上で公開しています)

大学院生は、修了後も大学図書館・大学院図書室の施設、資料を利用することができます。

詳しくは図書館ウェブサイトをご覧ください。

(<https://www.toyoeiwa.ac.jp/daigaku/shisetsu/library/in/>)

開室時間・休室日

※変更する場合は図書館ウェブサイトまたは掲示でお知らせします。

開室 時間

- 平日: 14:00~21:45 (通常)
14:00~20:30 (休暇中など授業のない日)
- 土曜日: 9:00~19:30 (通常)
9:00~18:00 (休暇中など授業のない日)

休室日

- 日曜日、祝日、創立記念日、クリスマスほか



東洋英和女学院大学大学院

沿革

東洋英和女学院は、1884年にカナダメソジスト教会の婦人宣教師により、キリスト教精神に基づく女子の教育機関として設立されて以来、一貫してわが国の女子教育界に重きをなしてきた。

戦後は、わが国教育水準の高度化を反映して1950年に東洋英和女学院短期大学(1995年に大学短期大学部に名称変更し、1999年に廃止)を設立し、1989年に人文学部人間科学科・社会科学科からなる東洋英和女学院大学を設立した。1995年に人文学部を廃止、人間科学部人間科学科と社会科学部社会科学科の2学部へ改組転換。1997年に人間科学部に人間福祉学科を増設した。2001年に社会科学部社会科学科を国際社会学部国際社会学科に名称変更。1993年に人間科学研究科人間科学専攻および社会科学研究科社会科学専攻からなる大学

院修士課程を設立した。2002年には人間科学研究科に博士後期課程を設置。さらに2003年、人間科学研究科修士課程に「幼児教育コース」を開設し、社会科学研究科社会科学専攻は国際協力研究科国際協力専攻に名称変更した。2018年、大学院開設25周年を迎えた。2020年、人間科学研究科人間科学専攻修士課程は、人間科学領域、臨床心理学領域、幼児教育・発達臨床学領域の三領域体制となった。

学院の沿革に一貫して流れているのは、キリスト教精神による人間形成を重んじ、「敬神奉仕」の標語のもとに、豊かな国際性と広い視野をもつ人材を育成するという教育理念である。



Access & Map



- ① 東京メトロ日比谷線をご利用の場合「六本木駅」下車、3番出口から徒歩10分
- ② 都営大江戸線をご利用の場合「麻布十番駅」下車、7番出口から徒歩5分
- ③ 東京メトロ南北線をご利用の場合「麻布十番駅」下車、5a出口から徒歩7分



東洋英和女学院大学大学院事務局

〒106-8507 東京都港区六本木5-14-40

TEL.03-3583-4031 FAX.03-3583-3097

E-mail daigakuin@toyoeiwa.ac.jp

事務取扱時間 月曜～金曜14:00～21:00 土曜9:00～17:30